# アテネを目指して 2001強化について



（財）日本ハンドボール協会強化事業本部長　　緒方 嗣雄

2000年1月シドニーオリンピックアジア予選に敗れ、日本協会は、いち早く次期アテネオリンピック出場をターゲットに強化プロジェクトを立ち上げた（アテネ特別強化委員会設立 会長 岩井正樹氏）。

如何なる方法を用いてもアテネオリンピックに100％出場する。強い信念の元、色々な企画を立ち上げスタートしたが、諸問題が多く実行には及ばなかったものの、強化に関しての動きは出て来た。

2001年本格的に計画の実行に入る。留学生の派遣（スペインリーグに6名）、海外拠点（スペイン・カタルニア）の設置、賞金試合（ナショナルα・βで4試合）の実行、国内国際試合（アジアナショナルサーキット、ジャパンナショナルクラブカップ）、海外遠征。昨年は国際試合が7試合と少なかったが、今年度の日本代表選手は、国内、国際でのナショナルマッチは、30試合と多くの国際試合を経験した。春のアジアナショナルサーキットでのアジア各国の戦力の分析チーム、チーム力のチェックをした。特にナショナルα・βのチーム編成による選手各々の競争力、精神力の向上が伺えた。東アジア大会には3名の選手をα・βで変更して望んだ。成果はすぐに出なかったが、その後の欧州遠征、強化試合等で徐々にチームに連帯感が生まれ、戦う姿勢が見えて来た。度重なる試合において代表チームの中での自分の役割、何をすべきか、また試合に一戦一戦勝つことにより一人一人のモチベーションが上がってきた。チーム戦力としてはGKを中心とした守りを重視し速攻に繋ぐ日本固有のハンドボールが展開された。また、アジアナショナルサーキット、東アジア大会より懸案事項であった速攻を中心としたスピードハンドボールでは本来の力に戻ったが、ナショナルマッチのパワーについては、強化の重大な今後の課題である。国内シーズンに入り相当強い信念をもって体力の強化に努めなくてはならない。世界選手権アジア予選を勝ち抜く為のフルタイムハンドボール活動を、現状のスポーツを取り巻く環境、業務関係、所属チーム、家族等の問題で断念せざるを得ない。アテネオリンピック出場のためには今回の世界選手権には必ず出場すべきである。

女子代表強化については、今年12月イタリアで開催される世界選手権に出場する。

代表スタッフ伊藤監督、黄コーチ体制で3年半日本代表チーム強化をして着実に力をつけている。東アジア大会では、前半リードし、後半も終始リードしたが大事な所で退場者を出し韓国に惜敗し、また、8月のソウルカップにおいても、ウクライナ、ロシアと世界の強豪を相手に互角に戦い僅差で敗れた。世界選手権にベスト10入りが期待が持てるようになった。また、9月の欧州遠征では、学生、故障者を除いた13名の少人数で12試合（ナショナルチーム、強豪クラブチーム）行い7勝5敗と好成績を収めた。少人数のため苦しい遠征となったが、その中でナショナリズムが強く現れチーム一丸となり戦えた結果である。世界選手権での上位を狙う自信をつけた遠征であった。また、今年度よりスカウティング、分析班の活動が加わりスタッフ、選手のサポート体制が機能し、試合の映像がその日の内に整理され記録データが分析され、スタッフのチーム戦術が選手全員理解のもと、戦いが行われるようになった。世界選手権に向けての準備は着々と進んでいる。希望の持てる女子日本代表である。

アテネを目指した男女日本代表チームは、順調に強化が進んでいます。強化には後退、足踏みは許されません。更に強い代表チームを目指して頑張って行く所存です。日本全体でサポートして戴きますようお願い申し上げます。

# ジャパン ナショナル クラブカップ 2001

## 日本α 全勝で優勝

ジャパン　ナショナル　クラブカップ2001大会は、アテネオリンピック出場を目標とした強化プランの一貫として開催された。大会は、8月26日から30日まで、ヨーロッパの強豪チームを招いて、名古屋市、鈴鹿市、岡崎市、横浜市を転戦して行われた。

参加チーム、試合結果は、以下の通りである。

### 参加チーム

⊙日本代表α
⊙日本代表β
⊙カタルニア選抜(スペイン)
⊙HC・ケヒラ(エストニア)
⊙GF・クロップスクルトゥール(スウェーデン)
⊙SKIF・ロスネフト・クラスノダール(ロシア)

この大会、日本αは開幕試合でエストニアを26—19で難なく降し、快調な滑り出しをした。その後も快勝を続け、最終戦では大型チームのクラスノダールを破り全勝で優勝を飾った。第2位には、2m級の選手を揃えたロシアのクラスノダールが、3勝1敗1分けで入った。

一方日本βは、奮戦するも勝利に結びつかなかったが、最終戦のエストニアで後半勢いに乗り勝利を収め、対戦間の成績で5位に入った。

また、横浜での最終日には、たけし軍団のそのまんま東氏、つまみ枝豆氏、ラッシャー板前氏、井手らっきょ氏らによるアトラクションが行われ、横浜商工による試合などで大いに盛り上がった。



エキビジションマッチでシュートを放つ・そのまんま東氏

### 戦　評

スウェーデン　22 (10—9 / 12—11) 20　日本代表β

日本代表β2番松林の速攻でゲームが始まる。スウェーデンの高いディフェンス、日本βの当たりの激しい3—2—1のディフェンスをお互いに崩し切れず、また、両GKの好セーブにより一進一退の攻防が続く。後半、日本βが一時逆転するも、スウェーデン6番Jonathan、3番Patrikに

得点を許してしまう。日本βは、6番斉藤らのシュートで粘るが力及ばず、22—20でスウェーデンが逃げ切った。

日本代表α　26（15—11／11—8）19　エストニア


日本αのＤＦの要、山口選手

日本代表αは11番中川のシュートで先取点を挙げ、その中川や7番田場らの素早いパス回しから追加点を挙げていく。一方、エストニアも長身を生かし、5番Roman、6番Roaldらのシュートで粘る。しかし、日本αは21分過ぎからペースを掴みはじめ、結局15—11の4点リードで前半を折り返す。そして、後半の立ち上がりに速攻2本が決まり、このままいくかと思われたが4分過ぎの6番池辺の退場によりリズムを崩し始める。その後、10分の5番野村の得点をきっかけにリズムを取り戻し、20分過ぎからは3—2—1ディフェンスを試す余裕も。エストニアも5番Romanらのシュートで粘るが、日本αのディフェンスを崩し切れなかった。

日本代表α　27（15—6／12—7）13　スウェーデン


パスをさばく、スウェーデン・ジュニー選手

緒戦で共に勝利を納めたチーム同士の対戦であったが、立ち上がりから日本αがペースを掴んだ。1分20秒に中川の切れのいいミドルシュートで先手を取ると、野村のフェイントシュート、阿部のサイドシュート、下川の速攻などで次々と加点。守ってはＧＫ四方を軸に積極的なディフェンスで、12分過ぎから10分以上スウェーデンに得点を許さず完全に試合の主導権を握った。

後半に入り、体格的に不利な日本は、スウェーデンの強引な攻撃に再三退場者を出すなど苦しい場面もあったが、二度にわたるコートプレイヤー4人の時間帯も、共に無失点で乗り切った。逆にディフェンスでは、相手のパスミスを次々に速攻に結び付けてリードを広げ、ゴールキーパーをベンチに下げて7人の攻撃を試す余裕を見せて完勝した。前半の四方、後半の坪根の両ゴールキーパーの好守が光った一戦であった。

日本代表α　30（13—6／17—7）13　カタルニア


ロングを放つ小倉選手（日本β）

開始早々、日本代表αは、田場で先制する。日本αは、9分過ぎから速攻などで4連取し、8—3とリードを広げた。この後ゲームは荒れた展開となり、ベンチ警告を含め、両チームに4つの警告が出された。しかし、カタルニアの荒いディフェンスは納まらず、23分過ぎからは立て続けに4人の退場者を出した。この隙に日本は4点をものにし、前半を13—6で折返した。

後半は一方的な展開となり、万遍なく得点を重ね、30—13で日本αが快勝した。

ロシア　21（10—8／11—8）16　日本代表β

ゲームは15分過ぎまで、5—4のロシアのリードと互角の展開で進んだ。ここあたりからロシアは、ヴァレリイ、アンドレイで着実に得点を重ね、25分には10—6とリードを奪った。日本βも前半終了間際、太田で2連取したが8—10で前半終了となった。

後半に入ると、日本はロシアの高い壁を攻めきれず、逆にアレクセイなどに立て続けにゴールを割られた。日本も必死に追いかけたが、結局21—16でロシアが勝利を物にした。

日本代表β　28（14—13／14—9）22　エストニア

開始早々警告退場が立て続けに出るという緊迫した立ちあがりとなった。得点は2点差に開いた時が1回というシーソーゲームで、14—13の日本βの1点リードで前半を終えた。後半も同様の展開で進行したが、日本βが11分過ぎからの4連取で、15分には22—18と抜け出した。エストニア

は16分からの２人の退場者を出したのが痛く、21分には19—24と差を広げられた。日本βは、終盤も太田、古家、松林で確実に得点を重ね、28—22で快勝した。


エストニア・ヤーン選手のポストシュート

日本代表α　30 $\begin{pmatrix}17-10\\13-11\end{pmatrix}$ 21　ロシア

日本11番中川のミドルシュートの得点で試合が始まった。立ちあがり日本はポストを絡めた多彩な攻撃や、固い守りからの速攻などで得点を重ね、10分経過した時点で８－２とリードを広げた。その後、ロシアは５番アンドレイなどのミドルシュートから攻撃のリズムを取り戻した。日本も５番野村のカットインシュートや速攻で得点し、一進一退の攻防が続き、前半は立ちあがりの得点差のまま終了した。

後半に入ると、ロシアは高いポストを使った攻撃を仕掛け、日本はフェイントの切れるフローター陣のミドルシュートやポストプレーで応戦した。後半の中盤からは日本のディフェンスがロシアのポストプレーを守り始め、速攻がつながり最後は９点差で日本が勝利を収めた。


サイドからシュートを放つ、ロシア・ビクトル選手

カタルニア　24 $\begin{pmatrix}11-11\\13-9\end{pmatrix}$ 20　日本代表β

早いボール回しからポスト、サイドを狙うカタルニアに対し、日本βは太田、小倉のミドルシュート、加藤の速攻などで対抗。前半は一進一退の接戦となった。日本βは20分過ぎ、７－７の同点から一気に４点を連取し、ペースを掴むかと思われたが逆に25分過ぎ、１人退場の隙をつかれ４連続失点。結局、前半は11—11の同点で終了した。

後半に入り流れを掴んだのはカタルニア。17番Juan Lopez Estiradoがミドルシュート、速攻、７ｍスローと大車輪の活躍で15分までに１人で６点をゲット。小倉、太田らのシュートで食い下がる日本βに３点差をつけて優位にたった。日本βも選手交代やチームタイムアウトなどで流れを取り戻そうとするが、焦りからか攻撃の歯車が噛み合わず、20分過ぎから８分間無得点。その間にJuan Lopez Estiradoのミドルシュートやパスミスを速攻に結びつけられゲームは終了した。

日本代表α　30 $\begin{pmatrix}17-4\\13-9\end{pmatrix}$ 13　日本代表β

日本βのスローオフでゲーム開始。３番加藤のステップシュートでβが先制。日本αも前半７分頃から11番中川の連続得点で徐々にリードを広げ、６連続得点する。たまらず、βは13分過ぎにチームタイムアウト。しかし、流れは変わらず徐々に点差は広がり、気がつけば13点差という大差で前半を終了した。

後半はαのスローオフでスタート。しかし、最初の得点はまたまたβ３番加藤がステップシュートで挙げる。αも野村のミドルシュートですかさず点を返す。βは後半、全員が良く動き、αのディフェンスを崩そうとするが、なかなか崩し切れず徐々に点差が広がる。そのような中で後半15分過ぎにはβが２人の退場者を出し、試合の流れは決定的になった。αは攻撃の手を緩める事なく、全員でバランス良く点をとった。日本αの圧勝。

| | 日本代表α | 日本代表β | カタルニア | エストニア | スウェーデン | ロシア | 勝 | 分 | 敗 | 得点 | 失点 | 差 | 点 | 順位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本代表α | | 30−13 ○ | 30−13 ○ | 26−19 ○ | 27−13 ○ | 30−21 ○ | 5 | 0 | 0 | 143 | 79 | 64 | 10 | 1 |
| 日本代表β | 13−30 ● | | 20−24 ● | 28−22 ○ | 20−22 ● | 16−21 ● | 1 | 0 | 4 | 97 | 119 | −22 | 2 | 5 |
| カタルニア | 13−30 ● | 24−20 ○ | | 26−23 ○ | 26−21 ○ | 21−22 ● | 3 | 0 | 2 | 110 | 116 | − 6 | 6 | 3 |
| エストニア | 19−26 ● | 22−28 ● | 23−26 ● | | 22−16 ○ | 24−30 ● | 1 | 0 | 4 | 110 | 126 | −16 | 2 | 6 |
| スウェーデン | 13−27 ● | 22−20 ○ | 21−26 ● | 16−22 ● | | 27−27 △ | 1 | 1 | 3 | 99 | 122 | −23 | 3 | 4 |
| ロシア | 21−30 ● | 21−16 ○ | 22−21 ○ | 30−24 ○ | 27−27 △ | | 3 | 1 | 1 | 121 | 118 | 3 | 7 | 2 |

# 第6回ワールドゲームズビーチハンドボール公開競技
# 第1回世界ビーチハンドボール選手権大会審判部報告

第1回世界ビーチハンドボール選手権大会がブラジルで開催されるのを前に、1999年、IHFよりIHFレフェリーの資格を持つ者の中から、ビーチハンドボールレフェリーを登録せよとの通知が入った。

日本からは、千葉県にて既にビーチハンドボールに接している仲田稔・植村彰ペアを登録した。ところがIHFからはこの第1回世界選手権大会のレフェリーとして浜田浩和・小笠原久郎ペアがノミネートされた。早速IHFに日本からは仲田・植村を登録したはずであるのに、なぜ浜田・小笠原かと質問した。回答の代わりというか、正式の回答はなかったが、その後仲田・植村ペアもこの大会の正式レフェリーとする通知が入った。すなわち、日本からは2ペアノミネートされたわけである。

8月22日、大会前日のレフェリーミーティングの折り、Roger XHONNEUXの話の中で、世界大会では1カ国1ペアが通例だが日本からは2ペア参加している、といった発言があった（これはちょっと理解に苦しむといった雰囲気のものであった。仲田・植村ペアを追加ノミネートしたことがRoger XHONNEUXに連絡できなかったのかもしれない)。最終日、全日程が終了した時点で、Roger XHONNEUXにこれら一連のことについて確認してみた。

◎ビーチレフェリーとして登録した者と、実際にノミネートされた者との違いは何か。

＊各国からノミネートしてもらったが問題があった。ヨーロッパのレフェリーはいろいろな大会で顔を合わせ理解できている。しかし、アジア・アフリカ・オセアニア・アメリカ大陸のレフェリーは、レフェリーコースあるいはイベントが少ないゆえ、登録されたレフェリーを必ずしも理解しているとは言えない。したがって登録はさせたが、今大会のレフェリーは、我々がある程度理解しているレフェリーの中から、ビーチハンドボールの審判ができる者をノミネートした。

今回の大会を終えたことにより、IHFとしては5ペアのビーチハンドボールレフェリーを確認したことになる。

今回参加したレフェリーのうち、イタリアとポルトガルのレフェリーは7人制ハンドボールレフェリーを卒業して（定年ではない）ビーチハンドボール専門になったレフェリーである。



△このことを考えると、日本としてもIHFレフェリーの中に、世界で認めるビーチハンドボール専門レフェリーを作ることも考える必要があろう。

**今回の大会を通じて得たビーチハンドボールのルール解釈について報告します。**

1．　Roger XHONNEUXがレフェリーパーティーの後、特にレフェリーに注意したことは「パッシブシグナル」をもっと早めに出せ、であった。

競技時間が1セット10分ということもあり、7人制ハンドボールの感覚で運営するべきではない。

例えば、交代したゴールキーパーが戦列に加わるまでゆっくりボールを回している場合。ボーナスポイントを獲得するためのチームパターンを作り上げるまでにゆっくりパスしている場合。

2．　スカイプレーはボーナスポイントになるが、このスカイであるか否かはレフェリーが決める。この認定基準は、我々の考えている基準よりシビアであった。しっかりジャンプしたところにパスされないとスカイプレーとはならない。

スカイプレーを試みたがレフェリーが認めるか否か、ベンチもプレーヤーも一斉にレフェリーのジェスチャーを見守る景色は、別の意味での楽しさがある。

3．　日本チームから、自分達は選手交代をルールに従って守っているが、外国チームにはルーズなチームもあり、それを管理するデレゲートがしっかり見ていないし、また今回のデレゲートのポジションではしっかり管理できないはずだと。

私も、ビーチ委員長の本間氏も、このデレゲートのポジションでは選手の交代ミスは管理できないと思っていた。そこで質問したところ、

＊3名のデレゲートが円滑にコミュニケーションをとり、ゲーム管理するのにはこのポジションが最もよいと考えている。

また、選手の交代時のミスは7人制ハンドボールのような厳格さは求めていない。50cm程度のミスは許している。

ビーチハンドボールは太陽の下広い砂浜で、おおらかに楽しくプレーしようと考えている。

渡辺副会長の言葉では、IHF自身がまだビーチハンドボールの方向性に結論が出せない状況だとのことで、今後さらに検討が加えられ、競技として厳格に管理するか、あるいはレクリエーション的雰囲気を残すか検討されること

だろう。

今大会ファイナル日を前に、Roger　XHONNEUXより、最終日のレフェリー割り当てを作ってくれと言われ、そのつもりでレフェリーを観察していなかったため些か驚いた。

最終日が10試合で５ペア、１ペア２試合編成になる。男女の決勝担当と３位決定戦担当を決めて編成して差し出した。同じ考えだとのことだったが、ＩＨＦの編成は結果的には３ゲーム担当と１ゲーム担当のペアがあり、その部分の考えは違った。必ずしも平等とならなくてもというのは、ヨーロッパ的考えか。

この世界選手権は、ビーチハンドボールの考え方にたくさんのお土産を頂いた。これらを活かして今後ビーチハンドボールがさらに発展するよう協力していきたいと考えています。

## ✻ 審判員として参加して ✻

小笠原　久郎

ＩＨＦより標記大会の審判の指名を受け、大会に臨みました。事前に千葉県富浦町で開催されたビーチハンドボールの審判講習会に参加し、そこで初めて実際に審判させていただきました。また、ルールの説明等研修させていただきました。本大会には、イタリア・ポルトガル・トルコ・日本２組の合計５ペアーの審判団で競技運営しました。

競技初日は、台風の影響で日程が大きく変更されました。参加国の一部が台風のため日本到着がかなり遅れ大会関係者もその対応で多忙をきわめておりました。23日競技初日から最終日までは、晴天に恵まれ競技がスムーズに運ばれました。思わず台風も歓迎してくれたようです。

ビーチハンドボール競技の特徴の一つに得点のバリエーションがあります。１点・２点・３点に区分されます。２点はスカイプレーでの得点とＧＫの得点であり、３点は主にＧＫがスカイプレーで得点した場合に与えられます。攻撃展開は非常に早く、攻守交替が終始行われています。もう一つの特徴はセット方式です。そのためにゴールデンゴール方式や、ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦といったものが組みこまれています。３種類の得点があるので、審判も２点の時、３点の時は大きく腕を振り得点を認定するなど様々なパフォーマンスをし、観衆にアピールします。観衆もそのパフォーマンスを期待しています。浜辺で和やかなムードではありますが、コートでの選手は真剣そのものでした。もちろんチームベンチからの判定に対するパフォーマンスも魅力の一つであると思いました。ビーチハンドボール競技が秋田県の本荘マリーナから世界に発信できたことは、ＩＨＦはもとより、日本協会の歴史に残る大イベントになったに違いありません。



小笠原レフェリー

ここまで行き着くまで、千葉県富浦を出発点に多大なるご尽力をされた関係各位、そして本荘マリーナを舞台に世界に発信された秋田の関係各位に敬意を表します。外国の選手が口ずさんでいた日本の言葉を最後に紹介します。ありがとう！

「青い空・青い海・熱い砂・真っ黒に焼けた肌・ビーチハンドボール万歳!!」

## ✻ 審判員として参加して ✻

浜田　浩和

今年の３月に、国際連盟からノミネートを受け、私達のビーチハンドボールの審判員としての準備がスタートしました。５月上旬に千葉県富浦での講習会に参加し、ルール確認とヨーロッパの動向など学びました。８月には、兵庫県明石での全日本選手権に参加し、実技トレーニングをして調整を終えました。日本では、まだ馴染みのないビーチハンドボールが、どのような大会になるのか少し不安でした。

秋田入りの22日は、台風接近の中を何とか移動できましたが、翌日は台風の影響で日程が半日ずれるなどありましたが、競技は無事スタートすることが出来ました。レフェリーは、イタリア・ポルトガル・トルコと日本の２ペアーで担当し、ＩＨＦ・ＰＲＣには以前世界女子ジュニア（中国大会）で指導して頂いたロジェ・オノー（スロベニア）が来日し、心強いものがありました。

ヨーロッパのレフェリーは、ビーチハンドボールが専門ということで、自分達との違いや７人制との違いなど、試合を観察することや話を聞くこと、反省会などで確認しました。実際に、３日間で６試合を担当しましたが、ルールの解釈や適用で混乱することはありませんでした。しかし、ビーチハンドも７人制同様に、各国男女共に戦術面で研究されていました。特に、10分ハーフという短い時間での勝敗、残り５秒でも逆転可能なスカイプレイやゴールキーパーの得点による２点・３点など複数得点。さらには、同点時に行う「ゴールデンゴール」戦、前後半一対一による「ワンプレーヤー対ゴールキーパー」戦による勝敗の決着など、７人制にはない醍醐味があり、審判としての役割の大きさや難しさも感じられました。

今回、疑問点として残してしまったものが、アクロバティックな得点（バックシュートなどがそれにあたるか？）が2点であるのか。具体的には、どのようなものを指すのか、解決できず積み残してしまったことが残念でした。今後、国内でもこのビーチハンドボールが、普及していくことを期待したいと思います。



浜田レフェリー

最後にこの場をお借りして、渡辺副会長、斉藤審判長をはじめ日本ハンドボール協会関係者各位、本間先生、松原先生をはじめとするビーチハンドボール委員会の皆様には大変お世話いただき、お礼を述べさせていただきます。

## ✻ 審判員として参加して ✻

### 仲田　稔

今回の第１回世界ビーチハンドボール選手権大会に審判員として参加することができました。そしてまた室内ハンドボールと同様にヨーロッパのレベルの高さを感じるところでした。それぞれのチームは技術的にも戦術的にも優れ、かなり経験を積んでいたようであり試合の集中力は大変なものでした。

実際に審判をしていて10分２セットということで室内ハンドボールよりも展開が早くゴールインの後にはすぐに次のプレーが始まっており、レフェリーにクレームをつけるチームはあまりありませんでした。時間的にも間延びすることなく、気がついたら第１セットが終わっていたというくらい短時間集中型で充実しており、点数も最大でワンゴール３ポイントまであるため戦術的にも大変おもしろく、毎日満員の会場のお客さんも大変な盛り上がりでした。



仲田レフェリー

また、この大会の順位・運営そしておもてには出なかった秋田県協会の裏方の皆様には大変ご苦労をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りしまして感謝の言葉に代えさせていただきます。

## ✻ 審判員として参加して ✻

### 植村　彰

８月23日(木)から25日(土)の３日間、秋田県本荘市・本荘マリーナ海水浴場において第６回ワールドゲームズビーチハンドボール競技が開催されました。ビーチハンドボール競技世界大会は、アジアのみならず世界でも初めての大会であります。このような大会に審判員として参加することが出来たことを光栄に思います。ビーチハンドボールの審判については、地元千葉県協会で開催される、全国ビーチハンドボール大会の中で今大会においても大変お世話になりました日本協会ビーチハンドボール委員会委員長・本間先生、県協会スタッフ(内記、松原、渡邊、山下、敬称略)の方等のご尽力により審判技術は身につける事が出来ました。

本大会に臨むにあたり気になるところは、ヨーロッパレフェリーが罰則についてどのような基準で線引きするのかが非常に興味深いところでした。大会初日のオープニングゲームは男女ともヨーロッパレフェリーが担当しました。ゲームを見て感じた事は、罰則の基準は私たちと違いはなく、特に驚くようなことはあまりありませんでした。しかし、スカイプレーなどの２点プレーでは、腕を大きく回転させ体全体でゼスチャーし、とてもユニークでした。レフェリーもゲームを盛り立てており、われわれも大いに見習うべき点でした。特にイタリアレフェリーは、ゼスチャーの一つひとつには、インドアハンドボールと同じようにコート場で起こる事象に対しても明確かつ毅然とした態度で対応し、選手、トレーナーおよびオフィシャルとのコンタクトの取り方も大変タイミングが良く、ストレスを溜めないレフェリングは、大変参考になりました。この経験を今後も自分のレフェリングに生かしていきたく思います。



植村レフェリー

最後に、今大会の開催を成功裡に導かれご尽力いただきました関係の皆様方に心より感謝の気持ちをと御礼を申し上げます。本当に御苦労様でした。そして、ありがとうございます。

# 第6回ワールドゲームズ
# 第1回ビーチハンドボール世界選手権大会

# 場内実況を担当して

まだ記憶に新しい今夏、秋田で行われた「第１回ビーチハンドボール世界選手権」。日本をはじめとする参加各国の選手に負けず劣らず、会場を盛り上げた方をご存知でしょうか。場内実況アナウンサーの松原英司さん、河合龍二さんです。

お二人は、５月に行われたアジアナショナルサーキットや東アジア大会、また８月下旬のジャパンナショナルクラブカップでも活躍され、場内実況の草分け的存在でもあります。盛り上げアナウンサーの役割が注目をされる中、お二人にその経験やご自身の実況というものへの思いを寄せていただきました。



盛り上げアナウンサー　河合氏(左)と松原氏(右)

## 実況の喜びと難しさ

愛知県立三好高等学校　松原英司

「GOAL IN！ Number 5 gained the two point by GK shoot」

アナウンスと同時に歓声と拍手が湧き起こる。鳥肌がたった。選手と観客が一体となる。まさにスポーツのおもしろさだ。この夏、秋田県本荘市の本荘マリーナにおいて「第1回ビーチハンドボール世界選手権」が行われた。夏の強い日差しの中、世界のプレーヤーたちがコート狭しと華麗なプレーを見せてくれた。

私たちは平成6年愛知国体をきっかけに多くの人たちにハンドボールを知ってもらおうと、場内での実況を試みた。始めたばかりの頃は、チーム・選手の情報収集に必死であったが、やがてその日のゲームがどのようになるかと期待が先立ち、選手の状態が気になってきた。審判の心境にも似ている。つまり、すばらしいプレイを引き出すための実況をしたくなっていた。また、多くの方々のご指導の下、観客の皆さんと一緒に楽しむことが大きな役割に変わっていった。

当初から気になっていたことがある。私たちのアナウンスは選手やベンチに影響を与えているのではないだろうか。こんな不安をうち消してくれたのは、国際試合を多く経験したあるナショナル選手であった。怒涛のような声援やブーイング。いつ自分が飲み込まれてもおかしくなかったという。その声を自分たちにいかに有利なものにするかによってゲームの流れは大きく変わってしまう。それだけの精神力がなければ国際舞台では戦えない。世界を見据えての言葉であった。

5月の「アジアナショナルサーキット」。アテネオリンピック特別強化委員会ではチームや優秀選手に賞金を出したり、日本代表選手とファンとの交流会を企画した。さらには、タレントを起用しビッグイベントとなった。プレーヤーは張りきり、見る側も大いに盛り上がった。その場にいることが幸せであった。

5月下旬には大阪で「東アジア大会」が開催された。公式試合だけに緊張感は通常とは別のものがあった。一方で、会場を埋め尽くした観客にハンドボールの楽しさを知ってもらいたいという思いには変わりはなかった。女子の日本対カザフスタン。いつものように選手紹介を済ませ、ゲームもまずまずの盛り上がりを見せた前半中盤を経過したあたりだった。実況席の前に突然AHFの役員が現れた。クレームがついた。予期せぬ出来事に言葉を失ってしまった。「ボールが動いている最中はしゃべるな」とのこと。何のために大阪に来たのだろうか。不完全燃焼のまま大会が終わった。

とまどいを引きずったまま8月を迎える。ルールブックを熟読し、ビデオを見てイメージだけはつくっていったのだが、ビーチハンドボールを実際に見るのは初めて。無論どのような会場で行われるか想像もつかないまま秋田入り。日本協会の方の「いつも通りやっていいよ、ビーチだから」との言葉でも緊張はほぐれない。ワールドカップだけにIHFの方々が何と言うのだろうか。不安だけが重くのしかかってきた。いよいよ試合開始。クレームはつかない。IHF代表のPeter Muhlematter (SUI) に尋ねてみると、「あなたたちはゲーム中、私の隣にいなさい。教えてあげるからそれをアナウンスしなさい。もっともっと盛り上げて！」という思いも寄らぬ回答。わだかまりはすべて消え去った。

「BIG POINT！ Number 5 gained the three point by GK sky shoot！」「観客のみなさん！ 大きな拍手と声援を！」「秋田の本荘ビーチにビッグウェーブを！」会場は興奮のるつぼと化した。「こんなにおもしろいスポーツはありません！ ハンドボールが好きになりました！」この一言のために実況を続けていきたいと思った。IHFの方々からも選手からも「最高のアナウンスだ」と言われ、感動の秋田ワールドゲームズであった。

それに続く「ジャパンナショナルクラブカップ」にも呼ばれて実況。日本代表の急成長に感心しつつ、ビーチとの違いも再び感じていた。

アジア的な緊張した静かな会場の中でのハンドボールと、ヨーロッパ的な熱くなることが当然のハンドボール。今、私たちが期待されているのはどちらなのだろうか。日本のハンドボールはどちらの方向に進んでいくのだろうか。

# 地方の時代です

愛知県立加茂丘高等学校　河合龍二

## 1 ハンパの産物

学生時代にゴールキーパーをしていました。インカレにも出場はしましたが1回戦負け。愛知教員チームでは教職員大会3位になりました。でも、私は結果の見えた後の「ラスト3分の男」。審判としてA級の資格を持っていますが、日本リーグ等を担当しているわけでもありません。高校男子チームの監督として、選手に恵まれ愛知県3位になったことがありますが、全国大会には進んでいません。豊田市協会の一員で地元愛知国体において記録掲示主任をしましたが、与えられた役割をこなすので精一杯。全体が見えていたわけではありません。

プレーヤー・審判・指導者・運営役員。すべてにおいて中途半端。何一つ極めていません。場内実況にしても、巧みな話術があるわけではなく、今夏お逢いしたユミさんのような魅力もありません。実況の発案者は中京大学の犬塚さんと記憶していますが、たまたまおしゃべりな国語教師の私がやりはじめただけ。松原さんとのコンビをトヨタ車体・稲住さんに取り上げていただいて県外でも実況することになり、とまどいさえ覚えました。

私たちへの好意的な評価として「様々な角度から話ができる」というものがあります。浅く広い経験が生きていることは確かです。ただ、私程度の経歴をお持ちの方なら全国に数多くいらっしゃいますよね。さらに私以上のハンドボール好きは、愛知だけでも20人はいます。ということは「ハンドボール会場を盛り上げられる人材はゴロゴロしている」ということです。

## 2 ホームチーム有利・審判絶対

批判をおそれた瞬間に言葉は出なくなってしまいます。たとえば国内トップの舞台である日本リーグ。“ホームチームを「ひいき」して何が悪い。アウェイ応援団もそれを覚悟の上で会場入りしなさい”というくらいのハートがあれば、歯切れもよくなります。

「観客の納得する笛を吹きなさい」と審判員に伝達があります。ハンドボールでは白黒つけがたいグレーゾーンが広いです。試合を任され自らの目を信じて裁く意気。審判の判定を尊重するのがスポーツマンシップ。判定の意図を伝えて観客の皆さんにもスポーツマンシップを持っていただきたい。場内の実況だからこそ、それができます。

## 3 役得「新鮮な経験」

勤務校校長は「どんどん（校）外に出て経験を積みなさい。君の成長を望む。その経験を生徒に伝えなさい」と活動を全面支持。初めての土地。どこにもいるハンドボールバカ。炎天下で試合を見ることもできずに働く駐車場係さん。責任感のカタマリ。熱血漢。汗。戦術。ホイッスル。すばらしいプレー。緊張の共有。人間ドラマ。すべてが新鮮です。

「涙」の紹介をしましょう。東アジア大会男子、中国対台湾。中国がノータイムフリースローで勝利。台湾GK、コートにうつ伏せのまま顔を覆って立ち上がれず。秋田世界ビーチ男子決勝。ワンプレーヤー対GK戦でベラルーシ勝利。スペインGK、ひざをかかえゴールポストを背にして号泣。

「笑顔」の紹介をしましょう。世界ビーチ女子決勝。男子同様ワンプレーヤー対GK戦。10人ずつ終えても同点。作戦タイムの後、ドイツは2ポイント狙いに失敗。後攻のウクライナは手堅く1ポイントゲット。ウクライナの笑顔のそばで、それ以上に輝いていたのが、全員納得の笑顔のドイツ。GKに涙なし。これぞ本来のビーチハンドかな。

こんな素敵なものがいっぱい目に耳に飛び込んできます。

## 4 地方の時代です

常々思うのは「こんな実況は誰でもできる」ということ。それぞれの土地で、知恵をしぼり人材を発掘し、まずは地域ハンドボールのさらなる隆盛を目指しましょう。すでに千葉県富浦では渡辺さん・松原さん・山下さんをはじめ、並々ならぬ情熱で「ビーチハンドの聖地」づくりがはじまっていますよ。愛知県三好会場ではトヨタ自動車OBが後輩の応援放送をしています。ドイツチームのように、みんなで相談してトライし、笑顔で「勇気ある失敗」を受け入れましょう。「地方」は失敗を許される特権を持っています。

松原さん、河合さんありがとうございました。

# 日本のビーチハンドボール

(財)日本ハンドボール協会
ビーチハンドボール委員長　本間誠章

2001年8月、秋田県本荘市、本荘マリーナ海水浴場において、第1回ワールドカップが開催され、成功裏に終了した。日本でこのスポーツが導入されてからちょうど5年目のことである。

1996年日本のナショナルチームや関係者がヨーロッパに遠征をしたときに、海岸で行われていたスポーツを見て帰国後話題になったのではないかと思われる。

私の耳に入ったのは、同年11月千葉県協会の会議の席上、当時の理事長が「日本協会からビーチハンドボールの研究を千葉県でしてみないかと言われているが適当な場所がなく受けるかどうか悩んでいる」との話が出た。いろいろと意見はあったが、研究していく上で問題のなさそうな海岸があるということで受け入れることにした。

早速関係資料の収集に入る。協会からビデオテープを、イタリアからルールを取り寄せるなど準備を重ね、1997年2月に千葉県協会に委員会を発足し、コートのテープや用具も似たようなものを探したり、手作りをすることから始めた。

5月に大会を開催しようと関係団体の理解と協力を求め、関東各都県に呼びかけて、千葉県の富浦町で開催した。東京、神奈川、茨城、千葉の1都3県から集まったチームに、ルールの説明、審判方法の解説をおこない、手作りのコート1面でのゲームだったが、プレーヤーはもちろんのこと、見学（応援）者も含め「おもしろい！」「楽しい！」「レジャースポーツとして最高！」「見てて飽きない！」「これならハンドボールを少しでも経験したことのある人はもちろん、未経験者でも練習すれば参加できるんじゃない？」「ゲームの合間に海に入れるので家族で来て参加もＯＫ！」等々の反響を得て我々は気をよくした。反面、用具の改良、ルールの再検討を課題に新たな資料収集をし、8月に全国に呼びかけて大会を開くべく、役員は多忙な日々を過ごした。

この年の8月に開催した大会には、早速、保育園の先生方が未経験者ではあったがチームを作り参加してくれ、とてもうれしかった。(以後大会の常連となっている)

また、この大会が後の第1回の関東大会と全国大会となる。

以後、富浦町主催の「関東ビーチハンドボールフェスティバル富浦さざ波大会」を5月に、千葉県ハンドボール協会主催の「全国ビーチハンドボールフェスティバル富浦さざ波大会」を8月に開催をしているが、当初から大会開催のための予算はなく、運営委員は手弁当で集まり、準備を進め、大会ＰＲと運営に関する問題点の改良を重ねてきた。

第2回の全国大会の時である。一人の若い女性が訪ねてきた。どこかでビーチハンドボールの話を聞き、どういうものか見てみたいとわざわざ四国の高知から来たと言う。早速、千葉のチームに入って体験してもらった。その後毎年、8月には四国からチームを作り大会に参加している。また、千葉で行った審判講習会にも参加している。

1998年、9月日本協会よりワールドゲームズ秋田大会に参加するように指示を受け、9月秋田市において初めてビーチハンドボールを公開し多くの市民に体験をしてもらった。また、ＩＨＦよりビーチハンドボールのルールについての発表もあり、検討し、質問をして改善を重ねていった。

1999年には、ワールドゲームズ開催地の視察が行われ、候補地として秋田市浜田浜海水浴場が内定し、8月下旬にこの会場を利用して公開ゲームを開くよう日本協会から指示を受ける。一方、日本ハンドボール協会から全日本大会を開催するようにとの命を受け、全国9ブロックより代表を出すようにとの指導があった。しかし、チームは関東地域に集中していたため、千葉で行われた全国大会と平行して男子のみ5チームでの第1回全日本大会となった。この頃からビーチハンドボールの普及にもっと力を入れなければと考え始める。

この年の10月に、ＩＷＧＡから秋田ワールドゲームズの公式競技が発表された。ビーチハンドボールは、まだ一度もワールドカップが行われていない（ヨーロッパにおいては学生選手権が行われていた）という理由から公式競技から外されたが、数少ない公開競技の中に入ることができた。

2000年、年々ビーチハンドボールへの関心が高まってきた。6月には、体験講習会の依頼があり、高知市手結海水浴場で大学生や一般約60名が参加して開催し、7月には青森県ハンドボール協会にお願いして野辺地町の海水浴場で（小中高生、大学生、一般約150名参加）、同じく7月22日秋田県本荘市で本荘市民教養講座ビーチハンドボール体験教室が開催され数多くの市民や小中高生が参加した。この本荘市での講座は、第2回全日本ビーチハンドボール大会並びにワールドゲームズリハーサル大会の関心を高めることも目的のひとつとして実施されたため盛大であった。

例年開催されている関東大会は5月に開催、第2回全日本大会は秋田県と日本ハンドボール協会の協力を得て無事7月に秋田県本荘市本荘マリーナ海水浴場で実施、同時に第2回審判講習会も同日行うことができた。全国大会も8月千葉県で開催、今までにない参加チームで（参加を断るほどであった）今後の運営方法に問題を残す結果となった。

一方、ＩＨＦは、ＩＷＧＡの答申を受けて2001年2月にブラジルで第1回のワールドゲームズを開催すると発表、そのため各大陸は、大会出場国決定のための予選会を開催し報告するように求めてきた。日本としてはアジア連盟に出場（男子のみ）を表明、その結果、出場国がイランと2ヶ国だったために予選大会なしでワールドカップ出場権を獲得する。

ワールドカップ参加のために、チームを結成し、強化合宿

を行い、あとは渡航手続きのみという段階で、急遽ブラジル大会は中止という連絡が入り、すべて終わってしまった。

2001年、ワールドゲームズ開催の年を迎えたが、幕開け早々ＩＨＦより第１回ワールドカップ大会を秋田ワールドゲームズと同時開催で実施という通知が入り、日本ハンドボール協会は多忙の年となった。(ワールドカップ出場には開催国ということで男女出場となり選手の選考(５月)に入る。出場手続き(６月)・強化合宿(６月から８月中)・ワールドゲームズとの打ち合わせ(随時)・会場準備(随時)・審判、補助役員の養成(４月～８月)・関東大会開催(５月)・全国大会開催(８月)・全日本大会開催(８月)・第６回秋田ワールドゲームズ並びに第１回ワールドカップ(８月23～25日)。

すべてを５ヶ月間で完成するために、日本協会、秋田ワールド、秋田県協会、本荘市、男女監督をはじめ関係者総力で国際試合の準備に当たった。

日本に導入されて５年目、今年度は大きな節目でもあったビーチハンドボールも、初めての国際試合を経験し、改めて幾多の問題点を抱え第２段階へと前進する糸口をつかんだ感があります。ＩＨＦも現在問題視していますが、今後のビーチハンドボールが競技スポーツとして成り立っていくのか、あくまでもレジャースポーツとして成り立っていくのか考えなければならないようです。

この５年間で参加したチームは（大会参加希望チームも含めると）300チーム強にもなり、開催当初誰がこんなにもビーチハンドボールが広まると考えただろうか。沖縄や東北地方、北陸地方、中部地方等でも興味を持っている人々がいる。今後は、全国各地でレジャースポーツとして、場合によっては、基礎体力向上のためのトレーニングとしても活用できるスポーツとして、全国各地で大会を実施して、このスポーツの良さを認識していただくと共に、関係者各位始め多くの指導者の方々に、活用・普及にご協力いただければと考えております。

## 参加チームの変貌（大会参加チーム数）

| | | 関東大会 | | | 全国大会 | | | 会　場 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | |
| 第１回 | 1997年 | 5 | 3 | 8 | 22 | 11 | 33 | 千葉県富浦町原岡海水浴場 |
| 第２回 | 1998年 | 6 | 4 | 10 | 30 | 15 | 45 | |
| 第３回 | 1999年 | 10 | 4 | 14 | 30 | 22 | 52 | |
| 第４回 | 2000年 | 10 | 5 | 15 | 36 | 21 | 57 | |
| 第５回 | 2001年 | 12 | 9 | 21 | 33 | 24 | 57 | |

| | | 全日本大会 | | | 会　場 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男子 | 女子 | 計 | | |
| 第１回 | 1999年 | 5 | ― | 5 | 千葉県富浦町原岡海水浴場 | 参加資格：男子のみ |
| 第２回 | 2000年 | 9 | 6 | 15 | 秋田県本荘市本荘マリーナ海水浴場 | |
| 第３回 | 2001年 | 6 | 7 | 13 | 兵庫県神戸市アジュール舞子海水浴場 | |

## 都府県別参加チーム数

| 都府県名 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 千葉 | 13 | 10 | 11 | 27 | 35 | 96 |
| 東京 | 4 | 10 | 13 | 23 | 19 | 69 |
| 神奈川 | 6 | 7 | 6 | 12 | 6 | 37 |
| 茨城 | 3 | 2 | 4 | 5 | 6 | 20 |
| 埼玉 | 1 | 3 | 3 | 3 | 5 | 15 |
| 山梨 | | | | 2 | 1 | 3 |
| 青森 | | | | 2 | 0 | 2 |
| 秋田 | | 1 | 1 | 5 | 0 | 7 |
| 宮城 | | | | | 1 | 1 |
| 愛知 | | 2 | 3 | 6 | 6 | 17 |
| 大阪 | | | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 兵庫 | | | | | 7 | 7 |
| 高知 | | | | 2 | 1 | 3 |
| 石川 | | | | | 3 | 3 |
| 計 | 27 | 35 | 42 | 87 | 91 | 282 |

# 高松宮杯・男子第44回・女子第37回
# 平成13年度全日本学生ハンドボール選手権大会展望

## 男子はシード以外にもチャンス
## 女子は筑波大を各シード校が追う展開

大会は平成13年11月14日〜18日、富山市総合体育館・富山県総合体育センターにおいて開催される。

東西学生選手権大会で出場権を得た大学と各地区学連推薦の大学男子32大学・女子24大学の合計56大学が参加、平成13年度の学生日本一が争われる。

### 【男　子】

男子は、東西学生選手権大会の上位４校がシードされているが、ノーシード校にも実力校がおり、混戦模様を呈している。

東西学生のチャンピオン日本大・中部大は、秋季リーグでもそれぞれ優勝し、安定したチーム力を見せている。日本大は16年ぶり２回目、中部大は初優勝を狙えるところにいる。これをシード校が追う展開となっているが、ノーシード校の中に日体大、早稲田、筑波大、中京大、福岡大ほかの強豪大学もおり、近時の傾向として、各地区学連のレベルの差がなく、対戦してみないとわからないような状況であって、男子は混戦模様を呈している。

中部大は、中谷(U—23)を中心とした堅いディフェンスで失点を最小限にし、攻撃は全員で良く動き、得点機を確実に生かして加点している。

日本大も鶴田の好リードで積極的なディフェンスを見せて、守りから攻めへのリズムが良く、さらに吉川、西山の両サイドの巧技で幅広い攻撃を見せている。

インカレ連覇を狙う大体大は、西日本、地区リーグでは不本意な成績を余儀なくされているが、早いパスワークで攻め、確実に得点を狙う攻撃力は注目される。また、その大体大を西日本・地区リーグで破っている大経大は、阪がチームをよくまとめ、大型選手はいないが早い攻めで狙っている。名城大も横地(U—23)、福田の怪我の影響で不本意な成績を余儀なくされたが、全員ハンドで旋風を起こすか。東海大、国士舘のシード校は、好不調が激しく、やや安定性を欠いている。

ノーシードの中では、日体大が注目される。前田、柳本、宮崎の主力選手(共にU—23)がスペイン留学で不在であるものの、太田(U—23)、窪小谷(U—23)などが、パワフルな攻撃を見せ、地区リーグでは日本大を破っている。畠中を中心とし攻撃力に厚みを加えている福岡大、地区リーグでは怪我人が出て不本意な成績に終わったが、回復すれば多彩な攻撃を見せる早稲田、木下の好守を背景に速攻の中京大などが上位進出を狙っている。この他では地区リーグで名城大を破っている初出場の大同工大が注目される。

### 【女　子】

女子は、東西のシード校の争いと思われるが、実力校でノーシードの茨城大がシード校を破って上位進出がなるか。

第１シードの東女体大がゲームメーカー三木、学生界屈指のサイド橋本(U—23)の怪我で、リーグは２位であったが、最終戦では筑波大の全勝に土をつけるなど、若手中心ながら波に乗ると面白い。

西日本で初優勝して勢いに乗る福岡教大は、ミスの少ない早い全員ハンドで、自身の初優勝もさることながら、九州へ初の覇権を持ち帰れるか注目される。

東日本勢は、全日本選手の早船、谷口をはじめ有力選手を揃えた筑波大の４連覇が成るか、大黒柱であった山田(オムロン)の穴を未だ埋め切れていない面もうかがえ、さらに、原田、早船の怪我もあり、安定性を欠いているが、主力２枚の怪我の回復如何と言える。

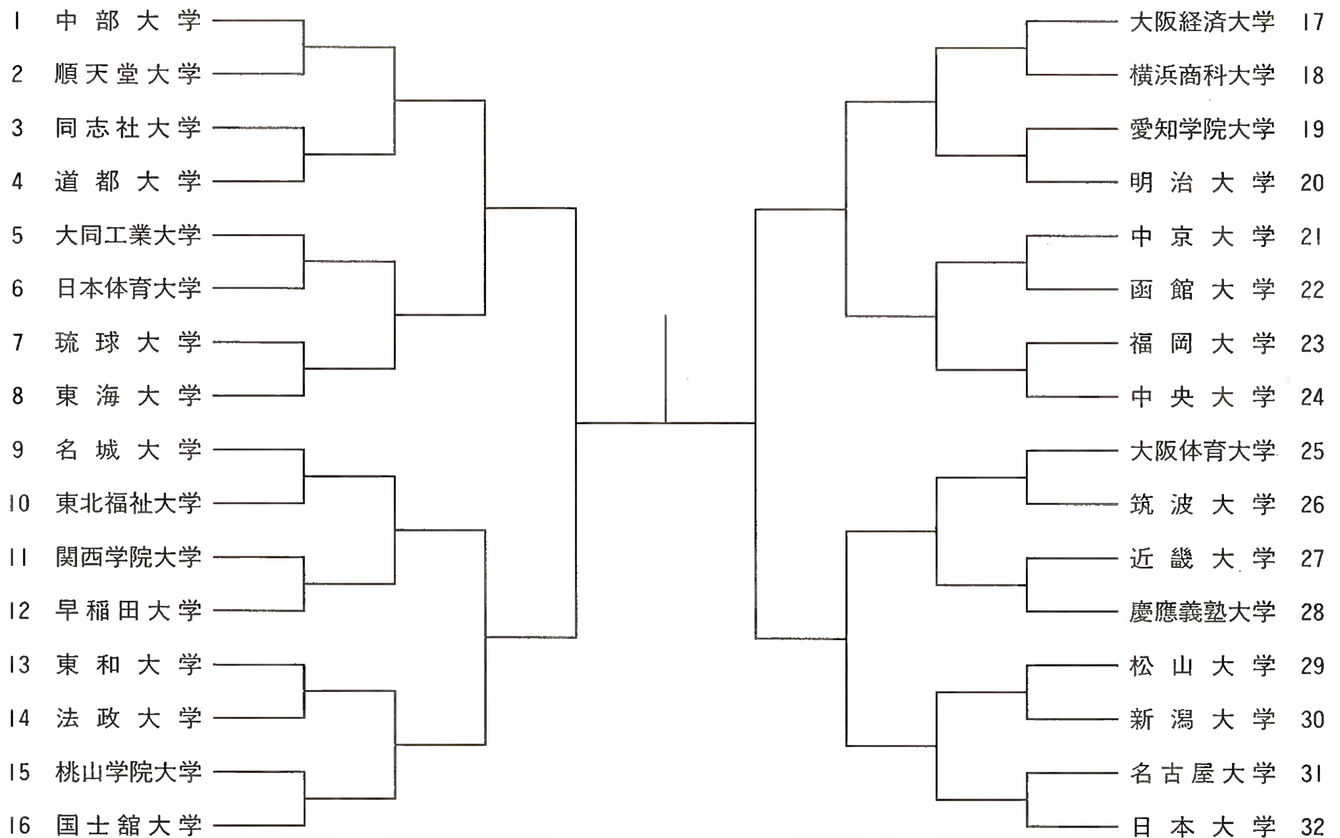
国士舘は、内田のリードでチームのまとまりを見せているが、日女体大と共にキメ手を欠いており、安定性をやや欠いている。

西日本勢は、有力選手を擁し、積極的な攻撃を見せている大阪教大、伝統の速攻を見せる武庫川女大の関西勢の巻き返しなるか、否か。

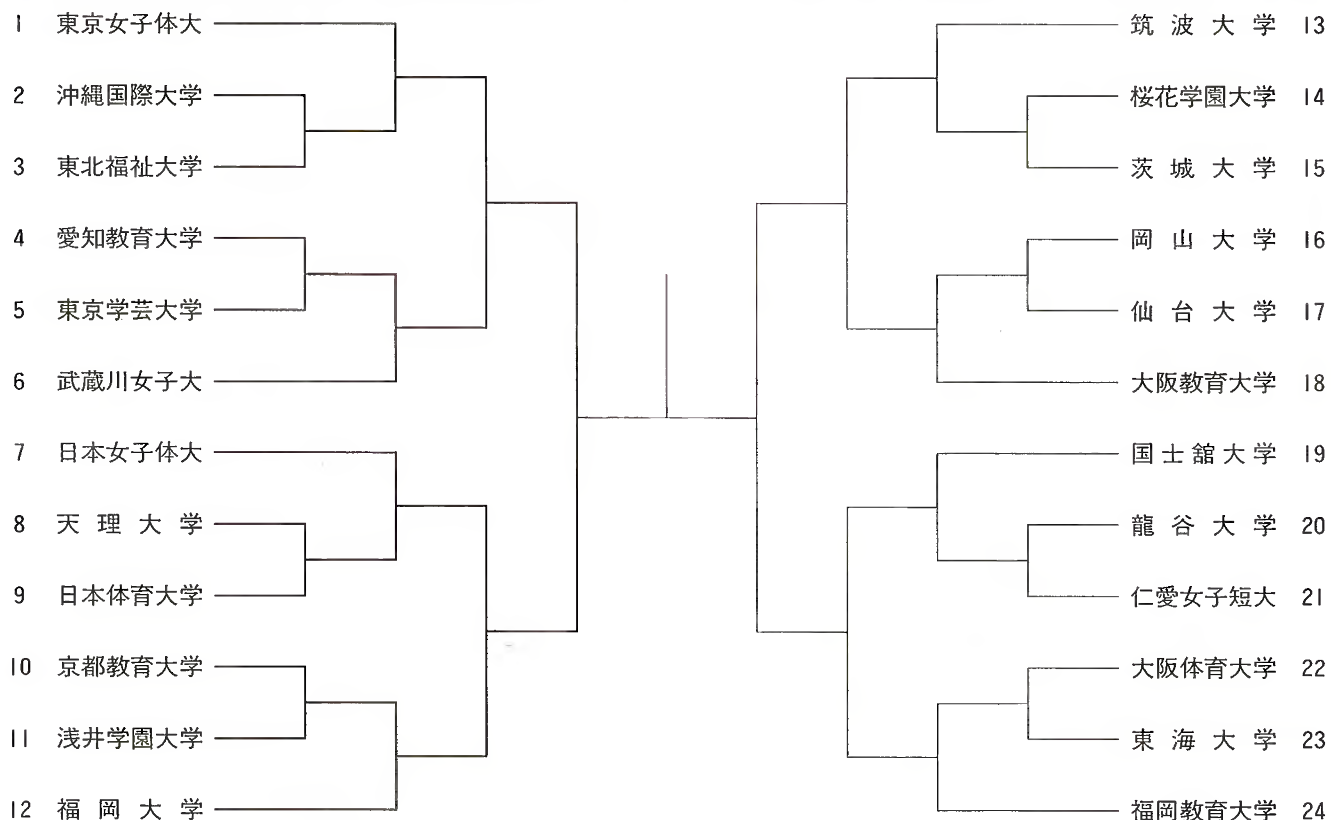
東女体大、筑波大と西日本４強の争いに、国士舘大、日女体大、茨城大が割って入るか。東西実力接近で、西日本に初の栄冠が輝くか、男子同様に面白い。

# 平成13年度全日本学生ハンドボール選手権大会組合せ

## （男　子）




## （女　子）



# アテネ特別強化委員会報告

アテネオリンピックを目指し、若手選手たちがスペインに渡って武者修業しています。そして、かつて三陽商会で活躍し同じくコーチ留学している田中茂氏から、その様子の報告が届きました。

田中氏は8月18日にスペインに到着し、カタルーニャ選抜やFCバルセロナの練習見学や試合観戦の一方で、日本人選手6人とのミーティングやこのプロジェクトのパートナーであるカタルーニャハンドボール協会との打ち合わせも行っています。同協会のコノヘロ会長らとの打ち合わせの席上では、全日本チームの渡西の件や日本人選手のレジデンシャル申請および生活手続き、各選手のトレーニングスケジュールなどについて話し合われました。

渡西当初は生活準備等と並行して、カタルーニャ選抜チームの合宿・試合見学を行いました。9月より、バルサ（FCバルセロナ）チームの練習に参加しながら、チームと協会の両面から少しずつスペインの内外部を勉強していきます。

また、日本人選手所属の3部リーグを中心に試合見学をし、日本人選手の活躍に頼もしさを感じました。選手はいずれも言葉やプレーの違いに戸惑うものの、今となってはコミュニケーションもしっかり取れるまでになり、チームの主力として期待されています。

内田に関しては、スペイン1部リーグのグラノジエールに所属し、トッププレーヤーと毎日練習し、とてもいい経験になっているとともに、当面の1軍所属が決まりました。

また、他の各選手はともに意欲があり、協会のバックアップにより練習を行う環境も整い、今後の成果として充分期待できると考えています。

私自身も言葉等の問題は残るものの、意欲的に取り組むには充分の環境です。本格的な練習段階ではないものの、現時点の感想としては、日本のトレーニングとは異なり、短時間に集中してチーム全体が動いているように思います。また、各チームの組織として、専門職（監督・コーチ・トレーナー・Dr等）の役割分担が明確にされ、プロとしての意識が高いと感じます。

9月22日よりスペインリーグが開幕し、現在、各選手ともリーグ戦に向けて調整中であります。今後の報告内容としては、日本人選手所属のチームを中心とした戦評・結果とともに、スペイントップリーグのメンタル・フィジカル・テクニカルの各方面を分析し、報告していきたいです。

以上が、田中氏の所感です。

続いて、各選手の様子です。

6人のうち、一足先に渡西したのは内田・柳本・前田の3選手です。

〈内田〉8月5日からチーム練習を開始し、マドリッド遠征やフランス遠征を経験して一軍に所属しているのが内田選手。「一軍に帯同し、有名選手と同じコートでプレーできたことで刺激を受けた」そうです。

〈柳本〉8月21日からチーム練習が開始。平日午前の2時間程の練習で、当初は走りこみやウェイトサーキット中心の中、「メニューが日毎に変わり、集中力の面でプラスになった」と語る柳本選手。

「レベル的には全日本での練習の方が上と感じるが、その中でも自分のプラスになるものを見つけ、いい経験をしたいと思っています。

ただ、寮生活の不都合（食事の時間が練習時間と重なる）や、生活費（寮費の他、ピソの保証金等の支払いで想像以上に費用がかかっている等）の面で不安を感じます」と率直な感想を語っています。

〈前田〉9月3日のチーム練習開始以後、午前中はウェイトトレーニングと語学学校、午後は速攻がメインで、ディフェンス・オフェンスは練習試合の中で調整（練習試合は週3日ペース）という練習をこなす前田選手。

「チームでは自他ともにエースとしての立場を認識し、テレビ放映やインタビューなどによりモチベーションも高まってきています。渡西直後は不安が大きかったですが、チーム内のコミュニケーションもうまく取れていて、監督やチームメイトからの期待に応えるべく、前向きに頑張りたいです」と元気そうです。

また、以下の3選手は渡西後、日が浅いため、今回は近況をお知らせします。

〈加藤〉午前はウェイトトレーニング、午後は実戦練習のプログラムが週4回で、週に1度は練習試合もこなしています。現在はグラノジェールで、内田選手と生活を共にしています。

〈小倉〉週5日練習で週1日練習試合という小倉選手。現在は午前中のウェイトトレーニング場を検討しているそうです。

〈宮崎〉週6日練習で週1日練習試合。現在は午前中のウェイトトレーニング場を検討しているそうです。

なお、この報告は2001年9月20日現在のものです。

## スペインに向けての決意

宮崎大輔

いよいよ9月9日、スペインに向けて出発です。20歳という若い私に、このような貴重な機会を与えてくださったことに心より感謝しています。

自分自身のレベルの向上、語学の勉強などたくさんのことに自分にできる最大限の力を出しきって頑張ってきます。頭の中は外国の大きな選手の中で戦えることへの期待と喜びでいっぱいです。

私は体が小柄なので、大きな外国選手を相手にする戦いの中で、いかに自分を生かせるか、点につながるかを実戦で身につけたい。2m以上の選手に通じるジャンプ力とスピードを使ったプレイ、小柄な体格ながらもそれを生かせるフェイント力等々、課題は限りなくあります。しかし、それをも克服できるだろうと思える私の意欲と根性と闘志、それに若さでぶつかってきます。

自分が成長している時は厳しく、辛いことが多いのですが、それにも増して「ハンドボールが楽しい」と思えるのです。今の私はハンドボールが楽しくて仕方ありません。ハンドボールをしてよかったと心と体が言っています。

全日本の一員としてレベル向上の担い手と言われるようになって帰ってきたい。吸収できるものは一つでも多く、伸ばせることは最大限まで、自分の今の力、これからの未知の力を信じて、自分を鍛えてきます。

全日本ハンドボールの一員として頑張ってきます。

アテネ強化プランの一貫として今年度予定しました、4試合の強化試合を終了しましたので、以下のように報告したします。

### 第1回強化試合

［日　　時］平成13年4月22日午後2時～
［場　　所］茨城県土浦市　霞ヶ浦水郷体育館
［表彰選手］
優秀選手賞 3名…田場裕也（湧永製薬）
佐々木教裕（本田技研）
中川善雄（大崎電気）
努力賞 2名………坪根敏宏（湧永製薬）、
松村昌幸（湧永製薬）
最優秀選手賞……該当者なし

### 第2回強化試合

［日　　時］平成13年5月12日午後3時～
［場　　所］神戸市立中央体育館
［表彰選手］
シュート賞………野村広明（トヨタ車体）
アシスト賞………田場裕也（湧永製薬）
GK賞……………荻田　圭（大同特殊鋼）
DF賞……………山口　修〈湧永製薬〉
敢闘賞……………下川真良（湧永製薬）
最優秀選手賞……該当者なし

### 第3回強化試合

［日　　時］平成13年7月22日午後3時～
［場　　所］紋別スポーツセンター
［表彰選手］
優秀選手賞 3名…中川善雄（大崎電気）
宮崎大輔（日体大）
小倉学（本田技研）
DF賞……………佐々木教裕〈本田技研〉
シュート賞………茅場清〈本田技研〉
最優秀選手賞……該当者なし

### 第4回強化試合

［日　　時］平成13年8月28日午後2時～
［場　　所］岡崎市総合体育館
［表彰選手］
最優秀選手賞………………中川善雄（大崎電気）
優秀賞（シュート賞）……該当者なし
優秀賞（GK賞）…………四方篤（本田技研）
優秀賞（DF賞）…………池辺健二〈本田技研〉
敢闘賞（アクティブ賞）…永島英明（大崎電気）
敢闘賞（アシスト賞）……加藤圭介（本田技研）
敢闘賞（努力賞）…………野村広明（トヨタ車体）

# 新世紀初のＪＨＬ開幕

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

21世紀初となる日本リーグが10月24日に開幕した。４半世紀を過ぎて、今年は26回目を迎える。新たな飛躍を目指してのスローオフとしたいものである。

リーグを構成するチームはこのところ毎年様変わりを見せているが、今年も例外ではない。男子１部では三陽商会、デンソーの名前が消え、新たに２部から北陸電力とアラコ九州が昇格。同２部は３年ぶりにインテックス21(三景が改称)が復帰し、新しくクラブチームのＨＣ東京が加わった。

女子は常勝軍団のイズミが地域密着を合言葉にクラブ化した広島メイプルレッズのほかソニー国分がソニーセミコンダクタとして再デビューを図ることになった。

厳しい環境を象徴しているともいえるがハンドボール界の頂点として激しい戦いでファンにアピールしてもらいたい。

今年のリーグも昨年ほどの変則ではないが女子の世界選手権など影響で、女子は11、12月のスケジュールは組まれておらず、男子だけの開催となっている。

男女とも例年にも増して混戦模様といっていいだろう。男子は３強時代といわれてきたが、ちょっと事情が変わってきた感じだ。バリシー・クジノフの世界トップレベルを加入させた本田技研熊本、プロ４人を加え戦力アップを図った大崎電気あたりも打倒３強へ激しい闘志を燃やしている。

また、アテネ五輪出場へ向けて強化している日本代表の遠征、合宿が続いていただけにどれだけ早く個々のチームとしてのコンビネーションがとれるか、とりわけ序盤の戦いしだいでは、混戦にさらに拍車をかけるかもしれない。

女子もクラブ化した広島メイプルレッズを追うオムロン、北国銀行、さらには日立栃木当たりが実力をつけ、紙一重の厳しい戦いを展開しそうだ。

また、日本では来年４月から施行される新国際ルールを先取りする。８月のナショナル・クラブカップ2001で初めて採用された。女子の世界選手権や来年の男子世界選手権アジア予選などを勘案していち早く採用するもので、スローオフ、タイムアウト、退場時間の積算などの変更点が、どのようにゲームを変えていくのかも楽しみである。特にタイムアウトの取り方をどのようにうまく使うかがみどころでもある。

いずれにしろ、新世紀を迎えた日本リーグは、将来のハンドボール界を占うといってもいいくらいの重要な意味合いを持っているといえるだろう。ハンドボールファンの心をつかんで離さないような、ハードワークと感動を呼ぶ戦いをみせてもらいたい。

また、将来を支える子供たちにもいい手本となるようなフェアで、楽しく、ワクワクするようなプレーを再三にわたってコート表現してほしいものである。

日本は女子マラソン、高橋の世界記録達成に沸いている。こうした魅力たっぷりなゲームがハンドボール界にもできるはずである。日本最高レベルを選手たちも心掛け、コート上で激しいプレーの応酬が見られることを期待したい。

# ボールも一つ、心も一つとなりて熊本インターハイに力を結集して



熊本県高体連ハンドボール専門部委員長　大宮　泉

新世紀ひのくに総体と銘打って熊本県、山鹿市、鹿央町、鹿本町、三加和町で8月1日より8月7日まで繰り広げられた、平成13年全国高等学校総合体育大会、高松宮賜杯第52回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は大盛況の中、無事終了することができました。

平成11年、熊本未来国体を開催した本県は、総体への準備期間が約1年余りと短期のために危惧する声が少々あったものの、そこは世界男子ハンドボール大会、アジア選手権大会、国民体育大会、全日本大学選手権大会、国際大会、全日本中学生大会、日本リーグ大会等諸々の大会を総て完璧に近い状況で今日まで遣り遂げてきた自信と、そして7月中旬に行った全日本実業団ハンドボール選手権大会を、周囲では大会に近いし無謀だと思われたが、この任務を行った競技役員の先生方と補助役員の高校生が一丸となり、ちょっと考えられない位の全力をそそぎ頑張ったことが本大会、全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技の運営競技面等々の大成功に繋がっていったものと強く確信している。

本大会で役員の一人、一人が確実に自分の役割を果たし、補助員の高校生達が、一人一役の仕事を明るいムードで人と接して、自ら進んで役目を真心から行って沢山の思い出を作り、しかも来熊する選手諸君が最高のゲームが展開されることを願って、この大会、競技役員の先生方、補助員の高校生役員、総勢1293名は一致団結して全力投球で役目に専念することができた。

一市三町の試合会場6コートにおいて、延べ観客数は40625人で他の総体競技28種目中、陸上競技、バスケット競技に次いで3番目の入場者数であった。全会場ともに連日満員であり、ハンドボール王国熊本の面目躍如たるものがあった。

一方、試合内容は、熱い、熱い熊本の体育館内は、燃え滾る位の速攻や守りが随所に見られ、それを裁く審判の先生方も、この大会に限って全く唯の一つもトラブルがなく、監督やコーチが抗議する場面など皆無であった。これは正に細澤審判長を中心に審判員の先生方が纏まりある研鑽を積まれている結集であろう。どのゲームを見ても審判の先生方が決して目立つようなことがなく、選手達があくまでも主役となり、生き生き、伸び伸びとした動きが多々見られた。

全試合、男女で94ゲーム行われ、レッドカードが2回出されたようだが、それはあまり逸脱したプレーではなく寧ろ教育的配慮で治められたようが気がした。高校生にとってレッドカードは無下に出すものではないと思う。一生に一回の晴れ舞台であるからである。今大会ではどのゲームも、どのゲームも最高水準に達したレフェリングが見られて、今後の大会に先駆けるものであった。審判の判定は選手が思い切ってプレーができる手助けをする笛を吹いていけば素晴らしい試合が見られると思う。心の笛を願っている。山鹿市、鹿央、三加和、鹿本町実行委員会の皆様方の日夜を問わぬ献身的な働きは、加藤、小山、芹川、井出の各課長様を柱として行われ、私達は何一つ問題となることもなく、安心して本大会に臨むことができ、各々の実行委員会の皆様に感謝の気持ちで一杯です。本当に有難うございました。

また地元の鹿本商工、城北高校の生徒の皆さん達は裏方として頑張っていただき、頭の下がる思いです。任務を忠実に行い、一日、一日と進歩していく姿は実に清清しく感じられました。両校の先生方にも早朝から大変な思いだったでしょう。そして鹿本農業生の山鹿燈籠踊りの優雅な舞は一生涯、皆の心の中に刻み込まれたと思います。

熊本県高体連ハンドボール専門部は近藤亨部長先生を先頭に奥園栄純先生の陣頭指揮のもと、8名の専門部委員が一致協力して成功を収めることができた。新世紀総体に相応しい経済面の節約、プログラムの無広告、松ヤニスプレーの使用、練習会場割り当て削減、駐車場の確保等、今までにないことを実現させました。これからも、まだ改善すべきところは早急に直し立派な大会になるような努力が必要であろうと思う。

結びになりましたが、鈴木孝八郎部長先生、大川洋司委員長先生をはじめ諸先生方の御指導に対し深く感謝申し上げ、厚く御礼申し上げます。なお日本ハンドボール協会から大西武三専務理事に御出席賜り御挨拶を頂き誠にありがとうございました。また他方面よりこの大会をご支援頂きました諸関係各位の皆様方に心から御礼申し上げ意を尽しませんが、全て皆様の御力添えのお陰があったればこそ総体が無事に終了したと思います。

更なる全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部の向上と発展を願い、全日本のハンドボールが大きく世界に羽ばたく日が一日でも早く訪れるように懇願しますと共に近い将来に必ずその日が来ると信じて疑いません。

インターハイ、永久に限りなく前進しよう。

ボールも一つ、心も一つ。愛するハンドボールのために皆が一つになれば何事もできる。明るく、楽しく、元気に、愉快に、面白く、全力で行こう。未来に向かって前進。

来年の茨城インターハイの成功を祈念し、皆様との再会を楽しみに今後も努力いたします。栄冠を求めて頑張りましょう。

沢山の思い出をありがとうございました。感謝！

連載 18

# 2001NTSブロックトレーニングの報告

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会 委員長 蒲生晴明

今年2年目を迎えたNTSブロックトレーニングは、9月23日の北信越ブロックを最後に無事終了いたしました。各都道府県関係者の皆様方には数々のご協力をいただきまして御礼申し上げます。

今後も、このNTSをより良きものにするためご指導・ご協力をお願い申し上げます。

10月号より各ブロックの報告書を順次掲載をいたします。

今回は中国ブロックを掲載いたします。

### ✲ NTSブロックトレーニングの開催日 ✲

| | 北海道 | 東北 | 関東 | 東海 | 北陸 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |
| 開催日 | 9月8･9日 | 9月8･9日 | 9月8･9日 | 8月25･26日 | 9月22･23日 | 9月1･2日 | 8月8･23･29日 | 8月28･29日 | 8月27･28日 |
| | | | | | | | 小･中･高校 | | |
| | | | | | | | | | |
| 開催場所 | 函館市 | 岩手県 | 千葉県 | 静岡県 | 石川県 | 奈良県 | 広島県 | 高知県 | 熊本県 |
| | 函館大学体育館 | 花巻市総合体育館 | 千葉県総合体育館 | 清水市立商業高校 | 北國銀行体育館 | 奈良大付属高校 | 湧永製薬体育館 | 高知県民体育館 | オムロン鹿陽センター |
| | | | スポーツ科学総合センター | 清水第二中学校 | | | | | 山鹿市総合体育館 |
| | | | 県立泉高校体育館 | | | | | | |
| ブロック技術委員長 | 高田智史 | 谷藤勝美 | 大村　久 | 山田正人 | 大房重則 | 繁田順子 | 森安昭雄 | 武田末男 | 田中　守 |
| 運営委員 | 蒲生晴明 | 東根明人 | 関　健三 | 杉森弘幸 | 荷川取義浩 | 佐々木英明 | 酒巻清治 | 佐藤壮一郎 | 佐々木信男 |
| コーディネーター | 松喜美夫 | 志賀良弘 | 松井幸嗣 | 高村誠一 | 荷川取義浩 | 宍倉保雄 | 酒巻清治 | 奥田新治 | 西窪勝広 |
| インストラクター | 冨本栄次 | 首藤信一 | 藤本　元 | 橋本行弘 | 金　明恵 | 橋本行弘 | 林　五卿 | 佐藤壮一郎 | 小俣訓子 |
| | | 田口侑義 | 首藤信一 | 田中俊行 | 角谷喜代重 | 長田健嗣 | 湊　勝利 | | 元島邦彦 |
| | | | 志賀良弘 | 岡部哲也 | | | | | |
| | | | | 三輪澄高 | | | | | |

## NTSブロックトレーニング報告書

報告者：中国ブロック　氏名：酒　巻　清　治

**1．開催日時**：小学生・男女　8月8日(水)、中学生・男女　8月23日(木)、高校生・男女　8月29日(木)

**2．開催場所**：広島県・湧永満之記念体育館

**3．対 象 者**　小学生　男子28名　女子17名　指導者7名
中学校　男子26名　女子29名　指導者15名
高校生　男子23名　女子24名　指導者11名

**4．NTS委員**：酒巻清治、
**インストラクター・デモンストレーター**：湧永製薬ハンドボール部選手16名

**5．NTS技術委員**：森安昭雄（岡山県）

**6．NTS都道府県技術委員**：
元田一好（広島県）野村幹雄（山口県）小沢敏正（鳥取県）奥川　恵（島根県）中谷幸生（岡山県）

**7．実施内容**

8：30　受け付け
9：30　体力測定
10：00　トレーニング

| | <小学生　8／8> | <中学生　8／23> | <高校生　8／29> |
|---|---|---|---|
| ウォーミングアップ | 足踏みゲーム | 尻尾取りゲーム | パスゲーム |
| コーディネーション | リズムドリブル<br>自由自在 | トス&パス<br>自由自在 | スリーメントス&パス |

| | | | |
|---|---|---|---|
| コーディネーション | ボールキャッチ | | |
| ボディーコントロール | 追っかけっこ | 追っかけっこ<br>コンタクト | コンタクト |
| パスコントロール | あっち向いてホイ<br>５人１組ビジョンケア<br>対人パス | 対人パス<br>パスゲーム<br>スクエアパス | ２：２パスゲーム<br>３ポイントパス |
| ゴールキーパー | ボールを眼で追う<br>反　応<br>ボールピックアップ<br>対ポジション別セービング | ボールを眼で追う<br>反　応<br>ボールピックアップ<br>対ポジション別セービング | ボールを眼で追う<br>反　応<br>ボールピックアップ<br>対ポジション別セービング |
| シュートコントロール | シュートトレーニング<br>ポジション別シュート | ポジション別シュート<br>シュートの打ち分け | ポジション別シュート<br>シュートの打ち分け |
| 12：00　昼　食<br>13：00　ＶＴＲ（東アジア大会編） | | | |
| 速　　攻 | ランパス(パラレル、クロス) | ランパス(パラレル、クロス) | ランパス(パラレル、クロス) |
| パスコントロール | スクエアパス | スクエアパス | スクエアパス |
| ＭＡＮ—ＭＡＮ | フェイント<br>１：１ゲーム | フェイント<br>１：１ゲーム | フェイント<br>１：１ゲーム |
| ゴールキーパー | ボールを眼で追う<br>反　応<br>ボールピックアップ<br>対ポジション別セービング | ボールを眼で追う<br>反　応<br>ボールピックアップ<br>対ポジション別セービング | ボールを眼で追う<br>反　応<br>ボールピックアップ<br>対ポジション別セービング |
| 速　　攻 | | ４：４連続速攻 | ４：４連続速攻 |
| グループ戦術 | | ３対３ | |
| トレーニングゲーム | 15分ハーフ | 20分ハーフ | 30分ハーフ |
| クールダウン | チーム別整理体操 | チーム別整理体操 | チーム別整理体操 |
| 17：30 | アンケート記入<br>閉　式<br>選考会議 | アンケート記入<br>閉　式<br>選考会議 | アンケート記入<br>閉　式<br>選考会議 |

## ８．内容評価

（１）良かった点

・スタート時点で各県のＮＴＳ担当の先生方が積極的に県レベルでの業務を遂行して頂けたので、参加選手選考に時間がかからなかった。

・昨年の反省から、より内容の濃いものにしようと、各レベルごとに３日間に分けて実施した。

・体育館の施設（音響や空調）を利用できたためよりトレーニングに集中できた。

・昨年よりインストラクターとデモンストレーターの人員を増加したためよりスムーズに進行させることができた。

（２）問題点・課題等

・参加選手の人数を削減含めて調整が必要。（１人の練習量が十分でない。）

・トレーニング当日は昨年に引き続き湧永製薬の体育館と選手で運営しているが、中国ブロック全体で運営したほうが、有事の際混乱しなくてすむ？

（３）今後に対しての意見など

・活動自体が大変になる可能性が考えられるが、現在行われているブロックトレーニングを各県レベルで実施してみてはどうか？

　ＮＴＳの活動として限定するのではなく、各地域に代表経験者、日本のトップレベルの選手がいるので活動期間をシーズンオフに絞り、各県の要望を吸い上げた上で派遣してみてはどうでしょうか？

　各ブロックで実施してほしいと言われるかもしれないが、現在派遣できる人材はほとんどが企業人であり会社の了解が得られなければ活動ができない。

　今年度実施してみて子供達と先生方のＮＴＳに対する意識はかなり上がってきたと思うので、ここで再度、現場レベルからではなく日本協会サイドからＪＯＣのゴールデンプランを絡めた形でＮＴＳの活動に対して認識を深めてもらえるよう各企業ならびに全国ブロックに働きかけていただきたい。

# 第9回 中・日・韓ジュニア交流競技会 活動報告

会　　期：2001年８月23日(木)～８月29日(水)
場　　所：中華人民共和国遼寧省瀋陽市
スタッフ：日本協会代表　高井清高(高岡向陵高等学校長)
監　　督　橋本義人（宣真高等学校女子ハンドボール)
コ ー チ　山出敏二（宣真高等学校女子ハンドボール)
監　　督　大房重則(高岡向陵高等学校男子ハンドボール)

## ■8月22日(水)

台風11号の接近の中、10競技団体の日本代表選手が17：00までロイヤルホテル名古屋に集合する。17：00よりホテル会議室において協会代表、監督、コーチの出席のもと、日程や諸注意が行われ日本選手団役員や協会代表、監督、コーチの紹介があり、団長から本競技会に参加する役員・選手に対して「日本代表としての自覚を持ち、中国、韓国選手と有意義な国際交流を行い、将来の活動に生かされる体験となってほしい」との激励をいただき、私達に緊張感が走る。

ホテルのレストランで男女ハンドボールの生徒が初めて顔をあわせたが、終始和やかな雰囲気であった。

## ■8月23日(木)

台風11号の影響もなく９：00にホテル出発し、名古屋空港に着き、出国手続きを行い、一路遼寧省瀋陽市に向かう。15：45頃遼寧大厦ホテルに到着し、男女ハンドボール選手に対して「健康管理」「水を飲まない」「ホテル内のマナー」等について諸注意を行う。はじめての中国料理に戸惑いながらも、食欲は旺盛であったので一安心をした。20：00より同ホテルにおいて各競技ごとの審判・監督会議が行われた。中国・日本・韓国の試合用ユニホームの色を決めるのに大変時間がかかった。

## ■8月24日(金)

中国での宿泊第１日目ということで選手の健康等が心配であったが、全員元気で食堂に集まり食欲も旺盛であり一安心。今日の日程を発表し午前中の練習準備をしたが、出発直前に日程変更があり午前中の練習はないと言われ戸惑った。とりあえずホテル前で男女ともランニングやパスキャッチ等に汗を流し、午後からの練習に備える。昼食後瀋陽体育学院体育館のコートで男女とも練習を開始する。体育館の照明は悪くパスキャッチが困難なようで、特にキーパーは大変だったと思われる。１時間半の練習時間であったが男女とも元気な声で頑張り、爽やかな汗を流していた。18：00より中国側によって計画運営された歓迎夕食会が行われた。会場には３カ国の参加者全員が集まり盛大に行われた。

## ■8月25日(土)

朝食後、８：20にホテルを出発し、試合会場である瀋陽体育学院体育館に向かう。８：50に開会式が行われた。開会式で初めて見る中国チーム、韓国チームは男女とも大変身長が高く圧倒された。開会式後中国対韓国の試合が行われた。

◆女子……………………………………………………………

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 韓国<br>(善化女子商業高校) | 28 | 14—7<br>14—10 | 17 | 中国<br>(威海市体育学校) |

◆男子……………………………………………………………

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 韓国<br>(泳薫高校) | 27 | 13—11<br>14—8 | 19 | 中国<br>(山東省体育学校) |

高さの中国、スピードの韓国とも見応えのあるゲームであり、日本チームの男女ともその試合を分析し、明日からの試合に備える。

## ■8月26日(日)

朝食後、８：00にホテルを出発し、試合会場である瀋陽体育学院体育館に向かう。男女とも中国と対戦。９：00女子、10：30男子が行われた。

◆女子

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中国<br>（威海市体育学校） | 22 | 13―5<br>9―10 | 15 | 日本<br>（宣真学校） |

試合前30分ほどの練習時間しかなく、立ち上がりが心配された。やはり前半は身体の切れが悪く中国に差をつけられたが、後半に入りパワーが全開し速攻等スピードのハンドボールを展開して中国チームに後半は勝つ。

◆男子

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 中国<br>（山東省体育学校） | 20 | 9―7<br>11―9 | 16 | 日本<br>（高岡向陵高校） |

試合前30分程度の練習時間しかないための練習不足と、加えて身長差があり、立ち上がりが心配されていたが先制点をとりチームに勢いが出、接戦であったが2点差で折り返す。男子の勢いは止まらず終始中国チームと一進一退の攻防を展開したが、惜敗する。

## ■8月27日(月)

朝食後8：00ホテルを出発し、試合会場である瀋陽体育学院体育館に向かう。男女とも韓国と対戦。9：00女子、10：30男子が行われた。

◆女子

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 韓国<br>（善化女子商業高校） | 24 | 11―5<br>13―9 | 14 | 日本<br>（宣真高校） |

試合前30分程の練習時間しかなく、前半は身体の切れが悪くて韓国に差をつけられた。後半に入り将来のことを考え1・2年生の新メンバーで挑戦した。韓国のスピードに充分に対応し素晴らしい攻防が展開された。

◆男子

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 韓国<br>（泳薫高校） | 26 | 11―8<br>15―9 | 17 | 日本<br>（高岡向陵高校） |

試合前30分程度の練習だったので、韓国のスピードについていけるか心配であったが、日本側には昨日の中国戦の勢いがあり、一時は2点差となる場面もあったが、やはり韓国チームのスピードとパワーが勝り前半が終わる。

後半に入り1・2年生を中心にスピードとパワーのある韓国チームに挑戦させた。

## ■8月28日(火)

朝食後8：00にホテルを出発し、見学・研修が行われた。午前中は瀋陽市の中心部に建つ故宮の見学。故宮は北京の故宮の12分の1の大きさだが清朝独特の雰囲気が色濃く漂っており、現在は博物館として開放されている。

午後からは歩行者天国になっている商店街を探索。日本選手や韓国選手とも買い物に汗をかいていたようである。17：00ホテルに到着し、夕食後帰国準備を行う。

## ■8月29日(水)

朝食後、7：00にホテル前で協会代表者が集まったあとに日本選手団長豊田氏より労いの言葉があり、競技団体ごとにバスに乗車し瀋陽空港に向かう。9：30に瀋陽空港を離陸した。今回の競技会に参加した全ての選手の思い出と心の財産を乗せ、一路名古屋空港に向かう。名古屋空港で入国手続きを済ませ、男女ハンドボール部に協会代表として挨拶を行い解散する。

# 所感

高岡向陵高等学校　校長　高　井　清　高

第９回中・日・韓ジュニア交流競技会に宣真高等学校女子チームと高岡向陵高等学校男子チームが参加いたしました。参加した選手は、それぞれ素晴らしい体験と大きな財産を得てくれたことと思います。両チームにこのような機会を与えてくださった関係各位に、心より感謝申し上げたいと思います。

男女とも良く頑張ってくれました。慣れない中国料理にもかかわらずしっかりと食事をとり、健康管理をしてくれました。ホテル内での挨拶やその他の礼儀など競技以外の行動面においても素晴らしく他の競技とは比べ物にならないと感じました。これも一重に日頃からの指導の賜物であり、改めて両チームの監督やコーチに敬意を表したいと思います。今回の競技会の実施にあたり、中国の皆様には大変なご苦労をおかけしましたが、練習会場の確保がなされていなかったことを残念に思いました。両チームの選手たちは８月21日頃より練習はしていないと思われます。中国到着から試合までに練習ができたのは24日の午後からの１時間半だけでした。26日の試合当日まで練習はできず、しかも午前９時から女子の試合が開始されたりして、試合前の練習は汗を流す程度で試合に臨むこととなり残念な思いをしました。男子も同様であり、両チームの選手には大変な思いをさせて試合に臨ませることとなりました。そんな悪条件の中、よく頑張ってくれたと思います。

今回の競技会では選手たちも素晴らしい経験と試合を通してたくさんの収穫があったと思います。これらのことを持ちかえりこれからの練習等に生かしてくれるものと信じております。私自身、男子チームの引率のつもりで気楽に参加しましたが、協会代表という使命を受け、どのようにすればよいのか戸惑いましたが、両チームの監督やコーチそして選手の皆さんのお陰で不安も解消され、無事大役を果たすことができました。心より感謝申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

終わりに、この書面をお借りして、日本選手団の関係各位に御礼と報告をさせていただきます。

# 中・日・韓ジュニア交流競技会参加名簿

## 男子

| 役名 | 氏名 | 学校名 |
|---|---|---|
| 日本協会代表 | 高井清高 | 高岡向陵高等学校　校長 |
| 監督 | 大房重則 | 高岡向陵高等学校　教諭 |
| 選手 | 飯沼圭大 | 高岡向陵高等学校　３年 |
| 選手 | 宮島竜二 | 高岡向陵高等学校　２年 |
| 選手 | 澤田直樹 | 高岡向陵高等学校　３年 |
| 選手 | 角　大樹 | 高岡向陵高等学校　３年 |
| 選手 | 江幡陽輔 | 高岡向陵高等学校　３年 |
| 選手 | 横嶋信一 | 高岡向陵高等学校　２年 |
| 選手 | 布村恒二 | 高岡向陵高等学校　２年 |
| 選手 | 竹腰一也 | 高岡向陵高等学校　２年 |
| 選手 | 多喜祐輔 | 高岡向陵高等学校　２年 |
| 選手 | 土井祐介 | 高岡向陵高等学校　２年 |
| 選手 | 釜谷健太 | 高岡向陵高等学校　１年 |

## 女子

| 役名 | 氏名 | 学校名 |
|---|---|---|
| 監督 | 橋本義人 | 宣真高等学校　教諭 |
| コーチ | 山出敏二 | 宣真高等学校　教諭 |
| マネージャー | 近藤千陽 | 宣真高等学校　３年 |
| 選手 | 川上晴香 | 宣真高等学校　３年 |
| 選手 | 阪本瑛子 | 宣真高等学校　３年 |
| 選手 | 十亀　歩 | 宣真高等学校　３年 |
| 選手 | 小島未来 | 宣真高等学校　３年 |
| 選手 | 稲葉絵美 | 宣真高等学校　１年 |
| 選手 | 新井田樹梨 | 宣真高等学校　３年 |
| 選手 | 西丸友佳子 | 宣真高等学校　２年 |
| 選手 | 植垣暁恵 | 宣真高等学校　２年 |
| 選手 | 河崎晴香 | 宣真高等学校　２年 |
| 選手 | 藤井紫緒 | 宣真高等学校　２年 |
| 選手 | 津村仁美 | 宣真高等学校　２年 |
| 選手 | 宮本佳恵 | 宣真高等学校　２年 |

# 全国ビーチハンドボールフェスティバルさざ波大会

## 男・女・と・も・に・全・日・本・が・優・勝

千葉県協会主催で毎年開催されている「全国ビーチハンドボールフェスティバルさざ波大会」は、8月18、19日の両日、千葉県富浦町原岡海岸で開催された。大会は男子33チーム、女子24チームが参加し熱戦を展開した。勝敗の行方は、第1回世界選手権を目指すALL JAPANが男女とも優勝を飾った。

### 【男子の部】

▼予選リーグa①BEACH BOYS2001（東京）②C－MOC（千葉）③成田北高校A（千葉）

▼予選リーグb①SAKURA（東京）②カテナチオ（東京）③チャクドン（東京）

▼予選リーグc①オール千葉（千葉）②IBU勝浦パイレーツB（千葉）③多摩ドリームス（神奈川）

▼予選リーグd①双頭会（東京）②佐原クラブ（千葉）③Weeds（神奈川）

▼予選リーグe①南クラブ（埼玉）③46Y（埼玉）③佐原高校（千葉）

▼予選リーグf①KAGURA（東京）②オジンガーZ（千葉）③TEC（千葉）

▼予選リーグg①麻生フェニックスA（茨城）②土浦三高クラブ（茨城）③ももやき（埼玉）

▼予選リーグh①IBU勝浦パイレーツC（千葉）②CK－A（愛知）③MC中山とゆかいな仲間たち（千葉）

▼予選リーグi①ALL JAPAN（日本）②CK－B（愛知）③麻生フェニックスB（茨城）

▼予選リーグj①東海学連クラブ（愛知）②市原クラブ（千葉）③成田北高校B（千葉）

▼予選リーグk①IBU勝浦パイレーツA（千葉）②MARINE BATTLE（千葉）③昭薬Vanquish（東京）

■3位トーナメント

多摩ドリームス　2－0　成田北高校A
ももやき　2－1　昭薬Vanquish
麻生フェニックスB　2－0　TEC
チャクドン　2－1　成田北高校B
多摩ドリームス　2－1　佐原高校
ももやき　2－0　Weeds
麻生フェニックスB　2－0　MC中山
多摩ドリームス　2－0　ももやき
麻生フェニックスB　2－1　チャクドン
多摩ドリームス　2－0　麻生フェニックスB

■2位トーナメント

オジンガーZ　2－0　カテナチオ
IBU勝浦B　2－0　土浦三高クラブ
佐原クラブ　2－1　46Y
CK－A　2－0　CK－B
MALINE BATTLE　2－0　オジンガーZ
IBU勝浦B　2－0　C－MOC
佐原クラブ　2－1　市原クラブ
IBU勝浦B　2－1　MALINE BATTLE
佐原クラブ　2－1　CK－A
IBU勝浦B　2－0　佐原クラブ

■1位トーナメント

麻生フェニックスA　2－0　オール千葉
東海学連クラブ　2－1　南クラブ
KAGRA　2－1　BEACH BOYS 2001
IBU勝浦C　2－1　双頭会
ALL JAPAN　2－0　麻生フェニックスA
IBU勝浦A　2－1　東海学連クラブ
KAGRA　2－1　SAKURA
ALL JAPAN　2－0　IBU勝浦A
KAGRA　2－0　IBU勝浦C
ALL JAPAN　2－0　KAGRA

（順位）

優　勝　ALL JAPAN
準優勝　KAGRA
第3位　IBU勝浦パイレーツA
第3位　IBU勝浦パイレーツC

### 【女子の部】

▼予選リーグ（ア）①千葉クラブ（千葉）②成北バード（千葉）③アーンパーンチ！（千葉）

▼予選リーグ（イ）①美少女100％（東京）②Zlzzy（茨城）③昭薬セルフィッシュ（東京）

▼予選リーグ（ウ）①CK－C（東京）②スーパー兄貴（千葉）③BEACH GIRLS 2001（東京）

▼予選リーグ（エ）①麻生フェニックス（茨城）②IBU勝浦パイレーツGALS（千葉）③武蔵野クラブ（東京）

▼予選リーグ（オ）①BEACH GIRLS千葉（千葉）②千葉明徳B・B・V（千葉）③ALL昭和（千葉）

▼予選リーグ（カ）①湘南クラブ（東京）②チューリップ（千葉）③CK－D（愛知）

▼予選リーグ（キ）①ジャイコス（神奈川）②千葉明徳B・B・S（千葉）③Cheerful Girls（千葉）

▼予選リーグ（ク）①ALL JAPAN（日本）②佐原高校（千葉）③ハミングバード（愛知）

■3位トーナメント

ALL昭和　2－1　アーンパーンチ！
ハミングバード　2－0　チューリップ
武蔵野クラブ　2－0　Cheerful Girls
昭薬セルフィッシュ　2－0　BEACHGIRLS2001
ハミングバード　2－0　ALL昭和
武蔵野クラブ　2－0　昭薬セルフィッシュ
武蔵野クラブ　2－0　ハミングバード

■2位トーナメント

Zlzzy　2－0　千葉明徳B・B・V
IBU勝浦GALS　2－0　CK－D
佐原高校　2－1　成北バード
スーパー兄貴　2－0　千葉明徳B・B・S
IBU勝浦GALS　2－0　Zlzzy
スーパー兄貴　2－0　佐原高校
スーパー兄貴　2－0　IBU勝浦GALS

■1位トーナメント

ALL JAPAN　2－0　ジャイコズ
BEACH GIRLS千葉　2－0　CK－C
美少女100％　2－0　湘南クラブ
千葉クラブ　2－1　麻生フェニックス
ALL JAPAN　2－0　BEACH GIRLS千葉
美少女100％　2－0　千葉クラブ
ALL JAPAN　2－0　美少女100％

（順位）

優　勝　ALL JAPAN
準優勝　美少女100％
第3位　千葉クラブ
第3位　BEACH GIRLS千葉

# 小学生チーム活動特集 その11

小学生クラブの活動報告をご紹介いたします。

## ■神戸ラスカルズ（兵庫県）

### ① 団体名……神戸ラスカルズ

指導者名：

監　督　前田芳直

コーチ　伴　和亮

　　　　荒井沙緒里

事務局　岡田朱美

　　　　伴　智代

　　　　米津明恵

　　　　石若里香

所在地：神戸市須磨区横尾５丁目３番

　　　　神戸市立横尾小学校

### ② 団　員　数

６年生　男子４名・女子６名

５年生　男子２名・女子２名

４年生　男子５名

３年生　男子１名

２年生　男子１名・女子１名

合　計　男子13名・女子９名

### ③ クラブ発足の経緯

平成10年に横尾中学校の今井敬太先生より、「ハンドボール普及のため小学生のクラブを作りたい」とのお話があり、横尾中学校ハンドボール部を卒業した生徒を持つ保護者各位のご協力を得て発足に向け話し合いを重ね、翌年３月に横尾中学校校区の小学生を対象に、部員募集を兼ねたハンドボール教室（横尾ハンドフェスタ'99）を開催し、平成11年４月、男子14名・女子13名の計27名の部員で正式に発足しました。

発足までには、兵庫県ハンドボール協会及び今井先生のご支援により、ボール等の用具は全て揃っていましたが、肝心の部員が何人集まるか分からず心配しました。それだけにハンドボール教室に多くの小学生が集まったのを見てスタッフ一同ほっとしました。

今年で創部３年目のまだまだ発展途上のクラブですが、創部１年目で運良く男子が全国大会に出場でき、同年の近畿大会でも男女とも３位になるなど、関係者がびっくりする程の好スタートを切ることができました。平成12年は女子が全国大会へ初出場し、近畿大会は１年目同様男女とも３位となり、今年は創部時の目標であった「創部３年目に男女アベックで全国大会へ」を達成することができました。次は「全国大会で一勝！」を目標に部員一同は練習に励んでいます。

### ④ 指導に当たって特に留意している事項

練習場所の関係で、週２回２年生から６年生が同じ内容の練習をしていますが、２・３年生と４年生以上に分け休憩時間等に差をつけ練習しています。また練習内容はボールを使った練習を中心に行い、常にゴールを狙う気持ちを



持ち1対1に強くなるように指導し、ルールは3対3等のミニゲームのなかで覚えていくようにしています。また週2回の練習では、次の練習までに日が開き、先週した練習の大半を忘れ再度先週と同じ練習を繰り返すということが多く、同学年の間で習熟度に差が見えることが多くなったため、当チームでは自主練習ノートを作り、練習した感想・次の練習までにする自主練習目標（キャッチボール・1対1等）を書かせ、練習時間の不足を補っています。その他には挨拶・服装・言葉遣い等にも注意し、ハンドボールをとおして小学生も地域の立派な一員になれるよう指導者ともに練習に励んでいます。とにかく「小学校を卒業してもずっとハンドボールを続けていきたい」という気持ちを持ってくれるように指導することを目標にしています。

## ⑤ クラブ員確保への具体的取り組み

横尾中学校校区である、横尾小学校・妙法寺小学校を中心に新学期に部員募集の案内を配布してもらっています。他に地域の広報誌に部紹介を掲載してもらい、部員同士・保護者・地域の方々には友人知人を通して勧誘をお願いしています。

## ⑥ 地域社会・学校との連携やかかわり方

地域行事（夏祭りでの出店、山登り、地域ふれあい運動会等）に保護者共々積極的に参加しています。学校とは各大会後に結果を報告し、全校朝礼で表彰伝達をしてもらっています。また、学校開放委員会等に参加するなどし、機会あるごとに校長先生を含め多くの先生方にお会いし、部員たちの学校生活、試合日程、練習時の様子等いろいろ情報交換しています。

練習においては近隣の横尾中学校・神戸星城高等学校及び社会人のＹＫＯクラブ・風見鶏クラブの方々に、練習場所、指導等で何かとご協力を頂いています。

## ⑦ ある日の練習メニュー

| 時刻 | 時間 | 内容 |
|---|---|---|
| 13:30 | 20分 | 準備 |
| 14:00 | 15分 | ランニング・体操・ストレッチ・フットワーク |
| | 5分 | 休憩 |
| 14:20 | 10分 | キャッチボール |
| | 30分 | シュート練習（各ポジション） |
| 15:00 | 60分 | 1対1・2対2・3対3 |
| 16:00 | 10分 | 休憩 |
| | 50分 | 3対3ミニゲーム |
| 17:00 | 15分 | クールダウン（ランニング・体操） |
| | 15分 | 片付け・ミーティング |

※練習の間、随時水分補給あり

## ⑧ 他の団体指導者への助言等

助言など全くありません。反対にこの掲載を読んでいただいた多くの指導者の方に、いろいろな助言を頂きたいと思っていますし、他のチームとの交流も希望していますので、練習試合等をよろしくお願いします。

## ⑨ 今後の目標

まだ3年目のチームで、指導者も試行錯誤をしながらチーム作りをしている段階です。とにかく一人でも多くの小学生がハンドボールに関わってくれるように、チームを長く続けていくことを最大の目標にしています。そして、卒業していった子供達が大人になって、指導者として戻ってきてくれることを楽しみにしています。

# 第5回 日韓スポーツ交流ハンドボール大会

## 全日本女子U—16試合結果報告

団　長　佐々木英明（韓国にて）、溝口博一（日本にて）
監　督　高野郁代
コーチ　平賀達也、石塚廣一

### 1 日時・場所

・2001年8月12日～16日　韓国富川市にて
・2001年8月24日～29日　大分県大分市にて

### 2 試合結果

◆8月13日

①日本　19（9—13／10—14）27　韓国

・攻められるときはよいが、そうでないときに一人一人が無理をしている。
・ディフェンスではもっと強く当たる。さらに、しつこさを持って。
・目で合わせたり、攻撃において強弱をつける。

②日本B　4—14　韓国

◆8月14日

親善試合

①日本　17（7—10／10—11）21　韓国

・速攻でのつなぎが欲しいが、全体的には固さもとれていいムードで試合ができていた。
・後半では、16—16と一時同点に追いつくが、ここ一発の決め手に欠けた。
・日本は韓国のエース、キョン・ギョン（サウスポー）のミドルシュートが止められず、韓国は日本のミスを速攻でつなぎ加点し、試合を有利に進めていた。

◆8月15日

①日本　14（9—7／5—13）20　韓国

・前半は、ポストの攻撃が展開され、ゴールキーパーのナイスセービングもあって、日本のペースで終わる。
・後半は、日本のミスが目立ち連続8得点されてしまい、完全にペースをつかめず終わった。

◆8月25日

①日本　5—11　韓国　　②日本　7—10　韓国
③日本　5—10　韓国　　④日本　8—7　韓国

・ゲーム形式での25分テストマッチを行った。日本チームにスタミナ面で見劣りがした。
・全体的に、日本チームにミドルシュートの決定力、その絶対数が不足していると思われる。韓国側は、4名から5名のフローターをローテーションしていた。
・日本チームは、それでもあきらめずに前向きに臨む姿勢と果敢にアタックするプレーはとても良かった。

◆8月26日

①日本B　2—11　韓国B

②日本　19（11—10／8—8）18　韓国

・気迫十分の日本チームは、カットインプレー中心にテンポよく攻撃のリズムを保てた。
・後半に入り、エース細木の2つのミドルシュートはファインプレーであった。
・勝負ポイントにおいて、相手のサイドシュートをゴールキーパーが防いだ。このことが日本チームにとって常に気持ちが離れずについていけた。

◆8月28日

①日本B　10—7　韓国B

親善試合

日本　12（4—12／8—9）21　韓国

・全ては前半のスタート15分であった。チームタイムアウトを取っても、日本のペースになれず、逆にそのミスしたプレーをすべて速攻に絡めて、連続7失点を許してしまう。
・後半こそ持ちなおしたが、あまりに前半の差が大きかった。

## 3 参加選手名と得点一覧表

| | 番号 | 氏　　名 | 13 | 14 | 15 | 25 | 26 | 28 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＧＫ | 1 | 下　地　ゆいの | | | | | | | K |
| | 12 | 小　野　淳　美 | | | | | | | K |
| ＣＰ | 2 | 山　崎　友　加 | | | | | | 1 | 1 |
| | 3 | 俵　間　千華子 | | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 9(2) |
| | 4 | 宮　本　僚　子 | 1 | | | | | 1 | 2 |
| | 5 | 岡　崎　加奈子 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | 2 | 13(1) |
| | 6 | 片　山　奈津江 | | 1 | | | | 3 | 4 |
| | 7 | 藤　井　久　美 | 2 | | 1 | 2 | 3 | | 8 |
| | 8 | 細　木　久　未 | 8 | 10 | 6 | 6 | 8 | 2 | 40(5) |
| | 9 | 坂　部　智　子 | 1 | | | | | 1 | 2 |
| | 10 | 藤　沢　奈　妙 | 3 | 1 | 4 | 4 | 4 | 5 | 21 |
| | 11 | 東長濱　あいん | 1 | | | 3 | | 1 | 5 |
| | 13 | 石　立　真悠子 | 4 | | 1 | 2 | 2 | 1 | 10 |
| | 14 | 三　好　早　紀 | | | | 1 | | 1 | 2 |
| | 15 | 臼　井　さや香 | 2 | | 1 | | | 2 | 5(1) |
| | 16 | 泉　　直　美 | | | | | | 1 | 1 |

＊上段の数字は、８月の日付を表す。（　）は、７ｍＴによる得点。

## 4 交流を終えて

日本・韓国ともに15・16歳での比較は、コートのみならずその生活ぶりを通してみても極端な差はないと思われます。叱咤激励する場面において、韓国はそのコーチングされている選手たちということもあり、厳しい指導にも十分についていこうとする。この部分は、その構成メンバーにおいて、日本とは大きく違っている。

日本チームのメンバーには、直前に大会を控えているものや急遽依頼して選手を集めるなどして、なかなか思い通りにはいっていないのが現状であり、残念に思えて仕方がない。

技術的には、その得点力のなさ、すなわちセットオフェンスで相手の上から打ち抜くような選手が不足しており、負担が少数の選手にかかってしまう。ただし、昨年あたりからは、基本的なミスも減ってきており、ルーズボールに関するボールの奪い合いや相手に果敢にアタックするディフェンスの姿勢などほぼ同等である。

このあたりからも、高校１年生とはいえチームに戻れば即戦力になっているのもうなずける。そして、このことが先に述べたチーム構成の難しさにもなってきているのではないか。

また、日本の中学校の指導レベルも上がってきていると思われる。どの地域からも参加してくれた生徒たちは立派な態度・プレーをしてくれた。

年々感じるのが短い間であっても、この事業に参加した生徒たちにとってはとても貴重な体験であり、その後いいステップになっていると思われます。今回もお世話になり、大変ありがとうございました。（帯同コーチ・石塚廣一）

# 日韓交流報告

中体連　溝　口　博　一

昨年度に引き続きスタッフの一員として参加させていただき、感じたことを報告させていただきます。

この交流会も第５回を迎え、韓国側スタッフと和やかな雰囲気の中でミーティングを行うことができました。日本側のスタッフについては全国中学校大会でも顔なじみの監督が携わっています。そして、選手たち一人ひとりの心の動きまでも気を使い、自然に士気を高めさせていく心配りのできる方々であり、大変心強く感じられました。選手たちについては、さすが全国から選ばれただけあって技術面ばかりでなく、精神的にも相手を思いやる心や自ら向上しようとする前向きな姿勢が一つ一つの言動に現れていました。

これからのオリンピックに日本が出場するためには、現在のナショナルプレーヤーではなく、年齢層が下がった、このアンダー16において、どのような点で引けをとるのか、また、どのような点で勝るのか、まずはスタッフ共々分析をする必要性があると感じました。

そこで、合同練習並びにゲーム内容を振り返りますと、合同練習は韓国側のコーチによって進められました。

フットワークの練習が２時間近く続けられ、日本の選手たちがついていけるだろうかと心配しました。しかし、韓国の選手たちと同じペースで練習をこなしていきました。ただ、この練習では日本の選手たちの下半身の弱さ、上半身と下半身とのボディバランスをさらに鍛え上げる必要性を感じました。また、ゲームにおいては、逆境になればなるほど、今の自分の肉体的、精神的状況、チームの状況、相手の状況を素早く把握するとともに、その状況をプラス方向へ転換しようとする精神力を養うことが最重要であると感じました。

その具体的な例として、相手ディフェンスに反則をされながらも味方に正確にパスをしたり、シュートまでつなげていったりすることができなかったことです。また、確実なシュート、７ｍスローでの得点。そしてチームの仲間への声掛け。さらに、ディフェンス面では、いち早く、周りの状況を把握すると同時に相手の動きの先読みをした動き等が必要であると痛感しました。

全体を通して、韓国は、とにかく「勝つ」こと。そのためにはどのような練習でもこなさなければならないという意識を絶えず選手たちに強くもたせながら練習に取り組ませていることを感じました。

これに対して日本の選手たちは、まだまだ力を出しきっていない。内に秘められた力は相当に測り知れないものがある！とこの６日間で、おぼろげながら感じとることができました。

最後に、この日韓交流事業に対して物心両面において多大なるご支援、ご協力を賜った大分県ハンドボール協会の方々に深く感謝致します。

可能性を秘めたアンダー16の女子選手たち。この先にきっとよいことがあることを祈りながら私の報告とさせていただきます。

# 2001年8月1日発効の新ルールの改正要点

### ★退場処分の宣告時にもタイムアウトとする

第2条で、全ての退場処分には試合時間の中断を義務付けることとなる。この規定は、従来と比べて遥かに客観的な公平さがあり、度重なる退場処分で、試合時間が無意味に長引くことを防ぐわけである。7mスロー判定時には直ちにタイムアウトとなっていることを思えば当然といえる。

### ★チームタイムアウトは ボール保持の時に申請してよい

チームタイムアウト規定も新しく修正された。チームはボール保持状態であれば、何時でも申請カードの提出が可能となり、同時に試合時間中断となる。

### ★7mスロー判定解釈の変更

「クリアゴールチャンス」の定義としての分類に入れられない場面での違反行為は、フリースローにしかならない。ゴールエリア前でのフリーシュート状態や絶対有利状態（カウンターアタック）でのクリアゴールチャンスの解釈基準は変わらないが、若干拡大解釈されることとなる。

攻撃プレーヤーがボールキャッチ直前に相手から違反行為を受けたとき、例えば、ゴールエリアライン方向へ飛び出してきたGKからファールされた場面で、レフェリーがシューターは無人のゴールにシュート可能状態であったと判断すれば、第14条にあるとおり7mスローと判定する。

シューターがシュートに繋がる場面で、何らかの個人的エラー（ハンドリングミス）を犯して防御側にボールが移ったならば、攻撃側に違反行為があっても防御側にフリースローを与える必要はない。この点がアドバンテージの拡大解釈となる。

### ★タイムアウト中コート入場は2人だけに限られる

レフェリーはコート内立ち入りを認めるときに、タイムアウトの時間超過とならないように留意すべきである。（時間となって一方のチームが位置についておれば再開の笛を吹いてもよい）。今後はチーム役員またはプレーヤーのうち2人だけの入場が認められる。

### ★パッシブプレーの解釈拡大

今後7：10にある予告合図はゴールレフェリーもはじめに示してよいこととなる。状況観察の1つとしてあげれば、プレーヤー交代を待つ間にその場でドリブルし続けるとか、後方プレーヤーとロングパスを交換するなどして時間を潰すことも対象となる。

### ★セッカチなスローオフが多くなりすぎている

4年前、第10条に導入されたルール改正は、試合をより一層活性化させようとしたが、現実にはスローオフの敏速化を応用している事例は極めて希で、相手にボールを取られる危険度が高すぎるともいわれる。また、人間は視角より、聴覚に反応しやすいものである。従って今後攻撃側はスローオフ開始の笛が鳴ったならば、直ちに相手コートに入ってもよいこととする。スローするプレーヤーはコート中央地点の左右1.5mを許容範囲内として認められると共に、相手が3m離れることには変わりはない。

### ★レフェリースローは廃止（抹消）となる

第13条にこれまでレフェリースローとして取り扱われてきたことを吸収し、第15条は抹消となる。ボールが天井構造物に触れた後コート上に落下したときの再開方法として適用されていたが、その代わりとして、今後はこのとき最後にボールに触れたプレーヤーの相手チームが真下の地点からフリースローを行う。

### ★退場時間が4分となる可能性

各種スロー実施方法（新ルール第15条）の内容には変わりはないが、新ルール第16条では従来の慣習が否定されることとなる。

これまではプレーヤーが退場処分を受け入れた後、非スポーツ的行為を取れば失格となったが、今後は新たに2分退場が追加されることになる。3回目の退場罰は失格に繋がるが、判定宣告の後非スポーツ的行為が加われば、追加として人数減処分が4分となる。

この規定はベンチ関係者にも適用される（指名退場）。

★チーム役員の違反行為も
チームとして連帯責任罰となる

これまでは交代ベンチでの非スポーツ的行為には、警告の後再発すれば失格とされたが、今後は退場処分としてチーム人数を減らすことで連帯共同の罰となる。粗暴で過激な非スポーツ的行為がコート上またはベンチで発生すれば、旧17：3終わりの文にあるように、コート上の過激危険なルール違反と同様に即座の失格となることは従来通りである。

★その他の改正点

＊新ルール第1条の意味内容は、コートのラインは色彩的に変化があってもよいということである。
＊試合管理責任者としては、第3条に規定されるボールの大きさ重さの変化の有無について注意を払わなくてはならない。試合中、必要とされる場合に少なくてもスペアボールは出来るだけ見えるようにして置かなくてはならない。
＊第4条には、アドバンテージ観察と無関係の不正交代について言及されており、コート内に入ったことが試合時間の中断を余儀なくするもので、もしクリアゴールチャンスが台無しとなれば、必ず7mスローと判定する。
＊負傷で出血状態のプレーヤーは直ちに交代させなければならない。
＊ボールがサイドラインまたはアウターゴールライン外にプレーされたならば、第5条では全て相手のスローインとする。GKがボールを持ったまま（自己のコントロールのもとで）自己のゴールエリアに戻るか、ゴールエリア内に居ながらプレーエリアのフロアにあるか転がっているボールを取り込んでも、今後は全てフリースローとなる。従来この状況は全て7mスローとされたが。
＊GKが自己のゴールエリア内でボールを確保（コントロールする）したならば、第6条により「再び試合プレーに戻す」と明文化されているが、ゴールスローとの関連で成り行きを同一に扱う。そこで自殺点はあり得ないことになる。他の種類のスロー実施規定にある相手側が守る3mの距離についても問題にする必要はない。防御側がボールを自己のゴールエリア内にプレーしてGKが触れたとしても、攻撃側には7mスローではなく、フリースローが与えられるだけとなる。
＊コートレフェリー・ゴールレフェリーの職務権限範囲関連のルール文（新17条）で第1・第2とする呼称は抹消される。試合プレーの運行について双方の見解や判定に食い違いがあれば、簡潔な話し合いにより共通の判定に達することが望ましい。
＊新第18条では、計時係（タイムキーパー）と記録係（スコアラー）の任務内容は共通責任として委任されるが、試合時間の管理は計時係だけがその任にあたる。試合管理最高責任者としての任務は、国を代表する組織（協会）から選ばれた人に委任される。




## 平成13年7月度
## 常務理事会

［日　時］　平成13年7月17日（火）16：00～19：00
［場　所］　明治神宮特別会議室
［出席者］　山下副会長、大西専務理事、常務理事9名、理事1名、参事1名、監事1名、男女ナショナルチーム監督、事務局3名

1、機関誌年間計画表が提示され、巻頭ページの執筆者が決定された。機関誌への投稿はさらに積極的に出していただきたいことが要請された。
2、NTSについて説明があった。ブロック委員の配置により、組織的に充実し、スムースに連携が取れるようになった。高体連専門員会でNTSの説明会を実施することになっている。
3、女子ジュニア世界選手権選手団の出発について報告があった。この大会よりIHFの新ルールによってゲームが行われるとの説明があった。
4、オリンピックアジア予選について、確認を取るよう要請があった。
5、「社会人・クラブ連盟」構想について説明があった。
6、JOCマーケティング委員会で、消費者金融業者をスポンサーとして認める可能性が大であるとの報告があった。
7、第1回世界ビーチハンドボール選手権大会について、役員は可能な限り出席して援助してほしい旨依頼があり、協賛金について検討がなされた。
8、アテネに向けての強化計画について、ナショナルチーム男女監督より説明があった。また、ナショナルチームスタッフ構想について報告と意見があった。
9、帰化問題について、他の実例のように組織対応でなく個人の問題として考える。協会がアプローチすべき問題でないとなった。

## 「がんばれハンドボール10万人会」9月新規入会・継続更新会員の紹介

〔北海道〕高　橋　英　明、大　橋　幹　正
〔岩　手〕野　田　高　広
〔茨　城〕岡　野　早　苗
〔東　京〕平　賀　とみ子
〔神奈川〕村　松　愛　美
〔富　山〕中　浦　雅　子、西　坂　真理子、
越　前　明　子
〔静　岡〕青　木　説　三、大　平　和　俊、
稲　葉　孝　行、杉　山　和　寿、
杉　山　新　次、迫　間　幸　治、
村　松　　晃、出　水　幹　也、
山　田　篤　司、野　桜　芳　正、
〔静　岡〕佐　藤　正　由、橋　本　佳　樹、
金　刺　　篤、稲　葉　孝　信、
斉　藤　　誠、松　林　純　一、
古　郡　正　晴、山　田　　進、
山　﨑　隆　好、大　畑　稔　夫
〔愛　知〕田　中　基　明、村　山　みどり
〔京　都〕川　野　晴　雄
〔広　島〕深　見　逸　子、深　見　知　博、
森　岡　　勝、寺　地　久　志
〔熊　本〕渡　辺　美　子、田　北　久美子
〔沖　縄〕大　城　太　郎、大　城　　聡、
大　城　大二郎

## 「JHL」ニュース定期購読のご案内

全国ハンドボール・ファンの皆さん、そして日本ハンドボールリーグファンの皆さん、今年も日本リーグの開催が近づいてまいりました。

26回の大会は、今まで以上に世界のトッププレーヤーが登場して、ハイレベルの試合が展開されます。今年度の日本リーグは10月24日㈬に開幕し、来年3月17日㈰のプレーオフ決勝まで、全国各地で熱戦が繰り広げられます。

この日本リーグの熱戦の結果速報、個人記録、さらには次週の展望などの豊富なメニューでタイムリーな情報を皆様にお届けできるのは「ＪＨＬニュース」だけです。

［特　　典］

購読のお申し込みをいただいた方には、特典として第26回ハンドボールリーグ総合プログラムをプレゼントさせていただきます。プログラムには、チームの選手紹介、試合スケジュールが載っております。また、素敵なプレゼントが当たるファン投票カードがついております。サイズは携帯に便利なポケットサイズです。

［発行予定］

2001年10月～2002年3月　計21回(予定)
＊回数に変更があるかもしれません。

［購 読 料］

期間購読4,800円(郵送料込)

［申込方法］下記までお問い合わせ下さい。

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1
日本ハンドボールリーグ事務局
☎03-3481-2361　担当・中嶋

## ［11月の行事予定］

〈会　議〉
11月10日（土）　常務理事会　東京
11月10日（土）　全国理事会　東京

〈大　会〉
高松宮杯男子第44回・女子第37回全日本学生選手権大会
11月14日㈬～18日㈰　富山県・富山市総合体育館ほか

## HAND BALL CONTENTS NOV



(登録チームの購読料は登録料に含む)

# 柔らかな感触で、最適なバウンド!




new

# 新発売




new

PKCH3-AD DX
5,500円




new

PKCH2-AD DX
5,400円

アデランテ

PKCH1-ADJ
3,600円






## 手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円




PKCH2-AD
4,500円







PKCH3-ADR
2,800円




PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第四二四号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可

平成十三年十月二十六日印刷　平成十三年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表　三四八一－二三六一
振　〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　大西武三

定価　年間三三〇〇円